HAKUJYUJIKAI

3

Annual Report **2018**

各部

看護部
薬剤部
放射線技術部
臨床検査技術部
臨床工学部
リハビリテーション部
栄養管理部
感染制御部
医療安全管理部

臨床研究管理部
事務部
　医療事務課
　診療情報管理課
　医局秘書課
　資材課
　施設課
　システム開発室
　総務室･財務室･人事管理室･広報室
地域医療連携センター
入退院支援センター
健康管理部

【看護部】

2018年度は、4月より地域包括ケア病棟の開設の準備を行い、診療編成·看護部の組織·人事異動など看護部にとって大きな変革があった一年でした。

看護部は働きやすい職場環境作り、ワークライフバランス·キャリアアップを視野に入れた看護部体制作りに取り組んでいます。また、長年取り組んできた看護提供方式を「固定チームナーシング」から「PNS=パートナーシップナーシングシステム」へ変更し3年目を迎えました。2014年度よりモデル病棟で始め、2016年度より全病棟で開始しました。2018年度は、臨床の場でどれほどペアー間でのアドバイスができているか、患者さんの反応はどうかということを評価しました。また、朝礼に加え昼礼や終礼などを行い、補完し合うように努めました。PNSは二人の看護師で看護を考えることができる、成長できる機会として捉え、看護師一人ひとりの力が質の高い看護提供に繋がると考えています。

また、看護師の専門性を活かした自律した活動展開は、地域の患者様に質の高い看護を提供する役割を担っています。他にも専門の講師を招き看護研究、看護に関する学習会を定期的に開催し、専門職者としての知識技術習得に努めています。

2018年度看護部実績を中心に、「ラダー別教育プログラム」「認定看護師活動」「看護外来の件数」「重点事項」などの詳細を項目別に報告します。

主な施設基準

1）急性期一般入院料Ⅰ　2）急性期看護補助体制加算（25:1看護補助者5割以上）
3）看護職員夜間配置加算16:1 Ⅰ
4）地域包括ケア病棟入院料Ⅱ　看護職員配置加算　看護補助者配置加算
5）認知症ケアⅡ加算　6）褥瘡ハイリスク患者ケア加算

職員配置および有資格者

■看護職員数および配置

		3階西病棟	3階東病棟	3階南病棟	4階西病棟	4階東病棟	4階南病棟	5階西病棟	ICU HD	手術室	外来	DM·RAセンター	管理室	合計
常勤	看護師	23	21	22	22	21	21	21	36	13	20	5	6	231
	准看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
非常勤	看護師	3	3	5	3	3	5	5	8	3	18	8	3	67
	准看護師	2	2	1	3	2	1	1	0	2	6	0	0	20
合計		28	26	28	28	26	27	27	44	18	46	13	9	320
	育児休業	17												17
	病欠·介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計		28	26	28	26	26	27	27	44	18	47	13	9	338(18)
常勤	ヘルパー	2	1	1	1	2	3	1	0	0	2	1	0	14
非常勤	ヘルパー	0	1	1	2	1	3	4	2	2	0	0	1	17
	アシスタント	1	1	1	1	1	1	1	1	0	27	7	1	43
合計		3	3	3	4	4	7	6	3	2	29	8	2	74

■常勤および新人看護師の離職率

過去5年間の離職率は下記に示す通りです。2018年度は、県外流出者が多く（家族の転勤や結婚・進学など）常勤看護師の離職率が高くなりました。

年　　度	常勤看護師離職率（全国平均）	新人看護師離職率（全国平均）
2014年度	10%（10.8%）	0%（7.4%）
2015年度	5.2%（10.9%）	0%（7.8%）
2016年度	9.4%（10.6%）	8%（7.8%）
2017年度	13.6%（10.9%）	10%（7.6%）
2018年度	14.0%（調査結果未）	0%（調査結果未）

■認定看護師の紹介および役割

7領域にて10名活動中。5年ごとの更新を行い、最新の情報と看護を提供します。摂食嚥下看護・心不全看護の教育課程修了者も1名ずつ在籍しており、認定看護師間の協力もあり地域および院内の看護の質向上に務めました。

認　定　名	取得年	教　育　機　関
緩和ケア	2005年8月	久留米大学医学部 認定看護師教育センター
感染管理	2007年7月	日本看護協会　神戸研修センター
緩和ケア	2009年7月	久留米大学医学部 認定看護師教育センター
がん化学療法看護 2名	2010年6月	久留米大学医学部 認定看護師教育センター
脳卒中リハビリテーション看護	2011年7月	熊本保健科学大学
緩和ケア	2013年7月	久留米大学医学部 認定看護師教育センター
救急看護	2014年7月	九州国際看護大学
手術室看護	2014年7月	兵庫医科大学
皮膚排泄ケア	2016年7月	福岡県看護協会

①緩和ケア認定看護師　　福田　富滋余　　桃田　美智　　山口　美穂子

緩和ケアは、BSC（ベスト・サポート・ケア）とも呼ばれ、病気と生きる患者さんが、つらくないように病気と付き合っていく方法を家族・患者さんとともに考え、心と身体、生活をサポートしていくケアです。がんを含むすべての疾患に対し、病気そのものや治療に伴う様々な苦痛和らげ、QOL（生活の質）を維持・向上を目的に治療早期から最期の時まで主治医・担当看護師緩和ケアチームとともに支援します。

②感染管理認定看護師　　奥田　聖子

「白十字グループに関わる全ての人を感染から守る」を使命とし、感染防止に取り組んでいます。定期的に流行する風疹や麻疹ですが、当院は以前より抗体獲得に取り組み、感染を受けない、感染源にならないような体制を作っています。

③がん化学療法看護認定看護師　　辻　かよ子　　原田　里香

がん化学療法に特化した知識と技術をもとに，安全な投与管理、副作用症状のマネジメント、患者がセルフケアできるような支援を行うことが求められています。また、看護スタッフの指導・相談を行うとともに、自己の臨床実践能力を向上し、がん化学療法看護の発展に貢献していく役割があります。『がん化学療法を患者さんご家族が安心して安全に安楽に受けられるとともにがん化学療法に携わるすべてのスタッフが安全に安心して看護ができる』ことを目標に活動を行っています。

④脳卒中リハビリテーション看護認定看護師　　山口　淳也

現在、脳卒中は死因の第4位ですが日本人寝たきり疾患患者の第1位を占め、また人口の高齢化とともにさらに患者数の増加が予想されます。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は，発症直後・超急性期から脳卒中患者様の病態予測を行い、重篤化を回避するためのモニタリングやケアを行い廃用症候群予防・家族を含めた退院支援・再発予防に努めていきます。

⑤救急看護認定看護師　　谷口　拓司

救急看護の対象は、年齢・性別・疾患・重症度などを問わず突発的に発症した患者様や御家族を含め、様々なライフステージの人々が救急看護の対象となります。そのような中で、危機的状況にある患者様の救命処置や御家族の精神的ケアなどの幅広い看護実践が求められます。救急看護認定看護師の役割として、臨床現場において、実践・指導を行いながら院内の救命技術研修等の活動を行っております。また、地域への救急医療の貢献に向けた活動を行い、救急看護・医療の質向上に努めていきます。

⑥手術室看護認定看護師　　萬　勝央

熟練したスキルと知識を生かし、周術期（術前・術中・術後）の患者さんに対して質の高い看護の提供を行う。また、器械だし看護、外回り看護の実践を基に、低体温予防、神経障害の予防、皮膚損傷の予防、不安の軽減の技術指導を行う。周術期看護実践として、病棟や外来と連携し、手術（体位固定など）に対しての相談を行い、安全な手術を受けられるような環境をつくっていきたいと思います。

⑦皮膚・排泄ケア認定看護師　　鴨川　千香子

皮膚・排泄ケアは、WOCNとも呼ばれ、創傷Wound/ｽﾄｰﾏOstomy/排泄Continence　Nursingの分野において、予防・ケアを専門的な知識と技術を持って行う看護師です。皮膚のマニアとして様々な患者様の褥瘡・創傷予防や、ｽﾄｰﾏ等障害を持ってしまった方が社会に復帰できるようサポートしていきたいと思っています。患者様の皮膚障害が改善し、皮膚のバリア機能が発揮できるようスタッフの皆さんに予防的スキンケアを発信していきます。院外の関連施設や地域の医療機関を横断的に活動していきます。

■学会認定看護師

専門学会認定看護師の資格取得を支援している。資格取得後は、院内外での看護実践、地域への講演活動等において、看護の質向上に努めている。看護管理者育成も日本看護協会の看護管理教育課程を毎年計画的に受講し、看護の質向上に向けて各部署の看護管理を行っている。

2019年3月31日現在

認定名	人数	認定名	人数
消化器内視鏡技師	7名	透析技術認定士	2名
日本糖尿病療養指導士	8名	呼吸療法認定士	5名
リウマチケア看護師	8名	IVR看護師	3名
糖尿病重症化予防（フットケア）	5名	骨粗鬆症マネージャー	4名

認定看護管理者教育課程修了：ファーストレベル31名、セカンドレベル11名、サードレベル1名

■法人内認定者

認定看護師や学会認定看護師・診療部などが講師となり、1年間の講座・実習などの教育を経て、法人内認定者として認定される。3年ごとの更新。認定後は、臨床指導を始めとする、現任教育を行う。2018年度からは「認知症ケア指導者」の教育課程が開始された。

認定部門	認定	2018年度受講者	認定部門	認定	2018年度受講者
説明支援ナース	7名	0名	ケア技術指導者	3名	0名
皮膚ケア	6名	0名	脳卒中リハ看護	5名	0名
緩和ケア	4名	0名	急性期看護	2名	0名
感染管理	6名	1名	認知症ケア指導者	—	1名
NST	3名	0名			
がん化学療法	1名	0名	合計	37名	2名

看護部の活動報告

■院外新人看護師研修および地域共同学習会・出前講座について

認定看護師・法人内認定者・学会認定看護師が中心となり、地域医療機関の院外新人看護師を対象とした研修会を実施している。出前講座では「感染管理」「看取りケア」「皮膚ケア」「救急蘇生」「口腔ケア」などがあった。

2018年度　新人看護師研修　院外受入れ

開催日	時間数		参加者数	指導者数
2018年　5月 3日	4時間	栄養管理・口腔ケア	4名	4名
	4時間	看護記録・看護診断	4名	4名
2018年　7月14日	2.5時間	皮膚ケア・褥瘡①	2名	2名
2018年　8月 3日	3.5時間	感染管理	7名	1名
2018年　8月18日	2.5時間	皮膚ケア・褥瘡②	1名	1名
2018年　11月 7日	3.5時間	標準予防策・経路別予防策・職業感染・UTI・VAP・SSI	3名	1名
2018年　12月 1日	2時間	糖尿病	2名	2名
2019年 ①2月4日～2月8日 ②2月18日～2月22日 ③2月25日～3月1日 ④3月4日～3月8日	各8.0時間×5日 =40時間	(実習) 1日目:救急外来 2日目:ICU 3日目:脳外科病棟とSCU	4名	1名/日
2019年　3月17日	2.5時間	緩和ケア	1名	1名
2019年　3月27日	3.5時間	標準予防策・経路別予防策・職業感染・UTI・VAP・SSI	2名	1名

地域共同学習会一覧

開催日	タイトル	担当者	院内	院外	合計
2018年　7月14日	褥瘡について① ●褥瘡についての基礎知識 ●ポジショニング（実技あり）●栄養対策	・皮膚排泄ケア認定看護師　鴨川千香子 ・法人内皮膚ケアナース	2名	38名	40名
2018年　8月18日	褥瘡について② ●症例検討 ●洗浄方法と創傷被覆材の貼付方法（実技）	・皮膚排泄ケア認定看護師　鴨川千香子 ・法人内皮膚ケアナース	4名	38名	42名
2018年　8月25日	心不全ってなあに ～各施設で注意すべき症状など	・佐世保中央病院 副院長兼循環器内科診療部長 木﨑嘉久 心不全看護認定看護師 教育過程修了者 舩崎このみ 他	6名	28名	34名
2018年　9月22日	ストーマについて① ●消化管・尿路ストーマの基礎知識 ●消化管ストーマの症例検討	・皮膚排泄ケア認定看護師　鴨川千香子 ・法人内皮膚ケアナース	4名	37名	41名
2018年10月20日	ご存知ですか？ 利用者さんの楽な寝かた・座りかた	・キネステティク認定プラクティショナー	0名	14名	14名
2018年10月27日	ストーマについて② ●瘻孔について ●瘻孔管理の症例検討 ●ストーマモデルでの実技	・皮膚排泄ケア認定看護師　鴨川千香子 ・法人内皮膚ケアナース	4名	21名	25名
2018年11月10日	脳卒中における生活習慣病予防の重要性について	・脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師 山口淳也 ・法人内認定 脳卒中リハビリテーション看護	0名	2名	2名
2018年12月　1日	私たちが、糖尿病患者さんにできる事！ ～患者指導のポイント～	・佐世保中央病院 糖尿病センター 医師、看護師、管理栄養士	0名	21名	21名
2019年　2月16日	高齢者の摂食嚥下障害に関わる 栄養・薬剤・リスク管理	・摂食嚥下看護認定看護師 教育課程修了者 原口佳寿美 ・栄養管理士 八木計裕、薬剤師 岩村直矢	0名	35名	35名
2019年　3月16日	～エンゼルケア・エンゼルメイク～ 心豊かな最期のケアを一緒に考えませんか？	・緩和ケア認定看護師 福田富慈余　桃田美智　山口美穂子	0名	31名	31名

■看護外来実績

認定看護師･法人内認定看護師･学会認定看護師が中心となり、市民･患者･家族･地域医療機関のスタッフを対象に相談･指導等を行っている。毎年、看護外来利用者は増加しており、2018年度の実績は下記のとおり合計2008件でした。

看護外来名	合計
皮膚ケア	428
下肢静脈	250
がん支援	904
女性の為の尿失禁	2
禁煙	18
脳卒中リハビリ看護	33
糖尿病	337
ハイパーサーミア	20
骨	17
合計	2,008

■新人看護師育成

17名の新人看護師は、人事本部からの研修を1日間、看護部の集合教育2日間を受け各部署へ配置しました。4月は毎日午後より新人看護師は研修室で集合教育などを受け、5月からは年間教育プログラムに沿った毎月の研修と、各部署での看護技術指導があります。学研ナーシングを用いたオンデマンド研修も活用しています。3月に全員そろっての卒業式を行いました。

■ラダー研修プログラム

「人材育成」「人材活用」「能力評価」　を目的として、ラダー制を導入し、等級別の研修を行っている。看護職務の内容と看護職に求められる能力を規定したキャリア開発の設計図であり、活用することで各自の役割認識を高め、患者様に対して質の高い看護を提供できます。個人の申し出により、下記のクリニカルラダーを用いて、個人のキャリア開発を推進しています。

2018年度　ラダー別研修プログラム

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ラダー2（2年目）	ケーススタディ		5/8 ケーススタディ①		7/3 ケーススタディ②		9/3・9/18 ケース発表						
	フィジカルアセスメントその他	4/16 1年間を振り返る		6/5 フィジカルアセスメント 呼吸・循環		8/7 フィジカルアセスメント 呼吸・循環			11/26 フィジカルアセスメント 確認テスト				
ラダー3（3年目）	フィジカルアセスメント		5/1 学研 ナーシング バイタルサインで ここまでわかる		7/23 学研 ナーシング 中堅コースⅧ	8/20 急変前の フィジカル アセスメント				12/17 フィジカル アセスメント 確認テスト			
		4/26 PNS① PNSにおける自分の役割を考える		6/18 学研 よりよい 看護ケアの ための ケーススタディ			PNS② レポート提出					PNS③ レポート提出	
ラダー3（4年目以降）ラダー4 ラダー5		4/18 PNS① PNSにおける自分の役割を考える					PNS② レポート提出	10/9 学研 連携コース①	11/19 学研 連携コース③			PNS③ レポート提出	
ラダー6	監督者研修		5/15 ファーストレベル 修了者の伝達講習	6/29 学研 医療施設で 働く人のために 必要な倫理			9/27 コンピテンシー①	10/30 コンピテンシー②	11/22 コンピテンシー③				
ラダー7	管理者研修		1人/日　連携室実習			8/2 近況をお知らせ							
	全体研修	4/20 看護部長講演 今後の動向を理解し、看護の役割を考える	5/29 診療報酬改定のポイント		7/26・8/6・8/8 看護必要度				11/1・11/14 安全				3/28 主任 退院支援症例報告会
4年目以降のラダー3 ラダー4以上	緩和	4/6 緩和ケアとは	5/11 患者の意思決定支援	6/1 全人的苦痛	7/6 がん患者に多くみられる苦痛朝状	8/6 症状マネジメントの実際①	9/7 症状マネジメントの実際②	10/5 緩和ケアの専門家への橋渡し	11/2 STAS・j とは①	12/7 VⅡ疼痛 コントロール シリーズ	1/4 在宅看取りの変化	2/8 STAS・j とは②	3/1 STAS・j とは③
	糖尿病看護			6/13 ①		8/24 ②			11/29 ③		1/17 ④		
	がん化学看護 17:45～	4/24 基礎知識1	5/22 基礎知識2	6/26 基礎知識3	7/24 抗癌剤の安全な取り扱い	8/28 安全な投与管理	9/25 副作用とセルフケア支援1	10/23 セルフケア支援2	11/27 副作用とセルフケア支援3	12/25 化学療法を受ける患者の心理	1/29 がん化学療法と放射線治療	2/26 社会的資源の活用について	
	感染管理			6/8 18：00～ 微生物	7/21 9:00～15:00 SP・経路別 KYK	8/11 12:00～17:00 SSI 洗浄消毒 滅菌							
	脳卒中看護 17:30～19:00		5/23 脳の解剖 脳と脳神経		7/27 脳卒中スケールについて			10/26 疾患・治療・看護 脳梗塞・脳出血			1/25 疾患・治療・看護 頭部外傷時の看護		
	急性期看護			6/15 急性期看護概論		8/17 呼吸フィジカルアセスメント		10/19 循環フィジカルアセスメント	11/16日 中枢神経 フィジカル アセスメント				
	SRST				7/10 胸腔ドレナージについて		9/11 体位ドレナージ		11/16 NHF ME谷口			2/12 SRST勉強会	
	NST 17:45～		5/16 栄養療法の基礎	6/20 栄養評価	7/18 各種栄養素		9/19 経腸栄養法の管理	10/17 経腸栄養法の実施	11/21 栄養輸液剤の種類と特徴	1/16 NST 栄養法における チーム医療			
	摂食・嚥下				7/25 ①口腔ケア			0/12 ②解剖・基礎					3/8 ③食事
	技術コース		5/31 Cv挿入介助	6/7 Aライン		8/27 挿管介助	9/14 腹水穿刺						
	皮膚ケア 地域共同型				7/14 12:30～17:00 褥瘡シリーズ①	8/18 12:30～17:00 褥瘡シリーズ②	9/22 12:30～17:00 ストーマ①	10/27 12:30～17:00 ストーマ②					
	皮膚ケア		① 5/17	② 6/21	③ 7/19	④ 8/23	⑤ 9/20	⑥ 10/18	⑦ 11/15	⑧ 12/20			

学会・研修会への参加実績

研究に関しては、定期的に外部講師からの指導を受けており、下記の日本看護学会（一題は論文投稿）の各領域を中心に、専門学会にも積極的に演題発表しています。

演　　題	部　　署
急性期看護（岐阜）2題	3階南病棟・4階南病棟
看護管理　（北海道）4題	3階西病棟・5階西病棟・手術室・外来/救急外来
慢性期看護（鳥取）3題	3階東病棟・4階西病棟・4階東病棟

また、専門学会にも8演題発表しました。法人全体の看護部で行う看護部Instituteでは、テーマを『地域包括ケアシステムにおけるこれからの看護師の専門性　～法人内認定者の役割から今後を考える～』とし、「法人内認定制度の11年間の変遷」で概要を説明し、4分野の法人内認定看護師が活動報告を行った。また、特別講演として日本リハビリテーション医学会認定リハビリテーション専門医の本多知行先生より「看護職が知っておいた方が良い摂食嚥下」についての講演をいただき、日ごろよりどのような観察が必要かなどを学ぶ機会となった。

院内の看護研究学会では、特別講師の石垣恭子教授による「アンケートの作成方法」についての教育講演をして頂き、院内では10題の発表があり、活発な質疑応答がありました。

2018年度看護部の重点的取り組み

1)「在宅復帰の推進　～退院後訪問」

在宅支援スタッフ(在宅支援ナースの育成プログラムを1年かけて学習し訪問看護・ケアプランセンター・介護系の実習を経て、在宅の現状も把握した看護師)を中心に患者や家族にとって「幸せな退院」になるような活動を積極的に行いました。入院時より、担当看護師とMSWによるスクリーニングを実施し、入院3日以内の退院カンファレンスの開催、4者(MSWの専任・退院支援の専任も含む)カンファレンスを行い、更に早期の介入を行っています。

多職種との退院前カンファレンスを実施し、在宅希望の患者・家族の意向に沿えるような最善の在宅支援を検討しています。必要時は、試験外出・外泊時を勧めて、在宅に必要な物が揃っているかの確認を行うなど、看護師、MSW、ME、リハビリスタッフ、訪問看護師と共に退院前訪問を行いました。

2017年度からは、退院後も転院先や訪問看護師と連携を取り、十分な連携・サービスが整っていたかの評価を退院後訪問にて行っています。2018年度は60件の退院後訪問ができ、在宅での様子、訪問看護師との同行にて看護の継続の確認をすることができた。また、1名においては、救急搬送が必要な状況であったため、その手続き等を家族と一緒に行い、安心を与えることができた。

2)時間外の会議・研修数を減らすための取り組み

2018年度は、働き方改革として「超過勤務時間と有給取得」について法案が成立した。看護界の中でも勤務間インターバルの問題もあるが、2016年度から時間外での会議・研修回数を把握し、2017年度からは時間外の会議や研修を時間内に変更できる分から変更していくことに取り組んできた。2017年度は看護部内だけでも205回の時間外会議・研修が行われていた。全体での協議、部署での検討を重ね2018年度は108回まで見直すことができた。対象者数が多い場合や講師の都合、業務の都合で時間外に行う際も、開始・終了時間の工夫を行った。また、同内容の研修を時間内に数回行うことにより、どこかの日時で参加できるように工夫もした。2019年度も引き続き「時間外の会議・研修数を減らす」ように実行する。

3)「認知症看護　～ユマニチュード手法の理解と活用」

法人全体でユマニチュードの学習を2016年度より開始している。看護部でも入門コースの修了者が3名おり、具体的な指導・実践を展開している。2016年度は2つのモデル病棟から開始し、2017年度では認知症センターとの連携、「認知症ケア加算Ⅱ」取得においての看護計画の充実を実践し、2018年度は全病棟で展開した。

また、「院内デイ」も2015年度より開設し、昼夜逆転の方などが昼間の3時間を趣味や体を動かすことで、有意義に過ごし、心身ともに落ち着かれていく経過を見ることができた。参加を楽しみにしている人もおり、短時間ではあるが、2018年度はのべ486名の参加者で効果的に運用できている。

4)倫理カンファレンスの充実

看護診断・退院支援・NST・SRST・褥瘡・緩和などのカンファレンスが多い中、倫理カンファレンスが十分にできていないことに対して、2018年度は、「倫理カンファレンスを1回/月以上行うこと」とBSCに掲げ取り組んできた。4原則に従い、治療方針や身体拘束に伴う内容が多く挙げられた。2019年度以降は、ACP(アドバンスケアプランニング)の理解と取り組み・身体拘束に対する見直しを実行する。

【薬剤部】

薬剤部は調剤室、注射室、製剤室、医薬品情報室、医薬品倉庫で構成され、救急および急性期の医療に24時間対応し、医薬品の適正使用ならびに適正管理に努めています。患者さんにとって最適な薬物療法が実施されるよう薬剤管理指導業務、調剤業務等を通して、チーム医療の一員として業務に取り組んでいます。

主な施設基準

薬剤管理指導料
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料1

職員配置

		常勤数	非常勤数
総数		14人	3人
	薬剤師	13人	1人
	薬剤助手	1人	2人

（2019年3月現在）

取得認定資格

日本医療薬学会指導薬剤師 …… 1名
日本医療薬学会認定薬剤師 …… 2名
日本医療薬学会認定がん専門薬剤師 …… 1名
日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 …… 1名
日本糖尿病療養指導士（CDE）…… 2名
日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師 …… 2名
日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 …… 3名
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 …… 2名
NST専門療法士 …… 1名

活動状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
薬剤管理指導料（件）		379	390	422	398	344	302	322	286	269	253	294	220	**323**
退院時薬剤情報管理指導料（件）		98	97	110	94	92	94	84	81	80	46	81	68	**85**
入院時持参薬鑑別件数		432	423	456	441	424	400	478	449	366	408	394	389	**422**
抗癌剤無菌調整算定件数	外来（件）	104	108	120	106	111	101	131	115	111	109	101	110	**111**
	入院（件）	35	31	39	26	36	33	37	44	48	68	47	40	**40**
外来（院外）処方枚数		5666	5956	5718	5981	5981	5264	6086	5849	5513	5645	5288	5584	**5711**
外来（院内）処方枚数		226	273	238	225	260	199	242	206	232	462	261	213	**253**
入院処方枚数		4639	4816	4430	4592	4503	4228	4595	4351	4276	4215	4450	4364	**4455**

学会・研修会等発表実績

■研究会、講演会発表

学　会　名	演　　題	発　表　者
RAチーム医療懇話会	チーム医療における薬剤師の役割と 薬薬連携に向けた取り組み	曽根本恵美
第6回佐世保消化器癌フォーラム	大腸がん化学療法において 薬剤師が継続的に介入した一例	池田祐輔
リウマチ研究会	チーム医療における薬剤師の役割と 薬薬連携に向けた取り組み	曽根本恵美

重点目標・評価と来年度への展開

2018年度には2名の薬剤師が入職しました。若い薬剤師が増えているため、薬剤部全員で幅広い知識の習得に力を入れています。また、専門・認定資格取得者も増え、専門分野にもより深い追究を目指しました。2019年度には、さらにより多くの入院患者さんの薬物療法に積極的に介入し、チーム医療の一員として適切な薬物療法に貢献できるよう努めます。

【放射線技術部】

放射線技術部は、放射線関連検査および治療に携わっている診療放射線技師を中心とした部門です。診断価値の高い画像情報を提供できるよう、各種専門･認定資格を有する診療放射線技師が多数在籍しており、また、患者さんが安心して検査や治療を受けることができるように医療被ばくの低減にも努めています。

主な施設基準

CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
高エネルギー放射線治療

職員配置

		常勤専従	常勤専任・兼任		非常勤数
			人数	常勤換算	
総　数		19人			
	診療放射線技師	17人			
	受付窓口事務員	1人			
	CTMRアシスタント	1人			

施設認定

医療被ばく低減施設認定

取得認定資格

放射線取扱主任1種……4名
放射線管理士……6名
放射線機器管理士……7名
医用画像情報精度管理士……1名
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師……2名
MR専門技術者……1名
胃がん検診専門技師……3名
胃がん検診読影専門技師……1名
救急撮影認定技師……2名
放射線治療専門放射線技師……2名
放射線治療品質管理士……2名
医学物理士……1名
X線CT専門技師……1名

活動状況

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
一般診療	58,753	60,845	61,872	65,864	64,405
検診	12,892	13,306	13,565	12,270	12,963
総計	71,645	74,151	75,437	78,134	77,368

重点目標･評価と来年度への展開

2018年度は、16目標中15項目達成とまずまずの結果でした。

目標達成できた代表的なものを区分毎にあげますと、「顧客満足の視点」においては、広報活動の活性化として、放射線技術部広報誌を2回発行し、地域連携施設へ配布しました。内容は、新規導入した血管造影装置の特徴と検査実績を紹介した『血管造影について』と2013年に取得し、2018年6月に認定更新を行った『被ばく低減認定施設について』でした。今後も放射線検査や治療について、地域連携施設の方々や患者さんにわかりやすく内容の濃い広報誌を作成するよう心掛けていきます。「財務の視点」においては、機器使用の研究発表として、目標値6演題をクリアできました。特に2018年度は全国学会へ1演題、地方会（九州）学会へ3演題の研究発表を行うことができましたし、県北地区や法人内Instituteでの共同研究発表を実施し、部門全体のレベルアップも図ることができました。今後、患者さんにとってメリットがある研究発表を継続していこうと考えています。「病院機能の視点」では、高度技術の習得として、冠状動脈CT

や大腸CT、肺動静脈CT、MRCP、心臓MRI、薬剤心筋負荷など、難易度が高い検査の習得を目標に掲げていたスタッフの指導を各検査に精通したスタッフが実施し、目標人数7名に対し8名とクリアすることができました。中堅・ベテランのスタッフが若手スタッフへ指導を行うことで、スタッフ間のコミュニケーションが深まるとともに、教育する側の知識の再確認にもつながるため、今後も継続します。「学習と成長の視点」では、力量の評価として、検査に関する知識技術の評価を実施するため、各装置責任者が基礎的な問題およびルーチンワークに必要な問題を作成し、当直を行っているスタッフ全員へテスト形式にて評価を行いました。テスト結果の採点と正答率の分析を行い今後、検査ごと、スタッフごとの再教育を実施する予定です。

目標未達成の1項目は、「財務の視点」の放射線治療計画数でした。放射線治療計画数は、2017年度は158件でしたが、2018年度は125件に留まりました。毎週始めに件数を報告し、治療依頼のお知らせを出すなどの活動が実らず、残念な結果でした。今後も引き続き、治療の件数報告と治療依頼をお知らせするなどの取り組みと、効果的な検査調整が行えるよう工夫をしていきます。

学会発表実績

日　付	学　会　名	演　題	発　表　者
2018年8月	長崎CT·MR研究会	金属アーチファクト低減ソフトの基礎的検討	長元　志高
2018年9月	第46回 日本磁気共鳴医学会大会	T2Prep·mDixonを併用した心電非同期3DTFE下肢動脈COR撮像の検討	馬場　隆治
2018年9月	第14回 PACS Innovation 研究会	医療被ばく低減施設認定取得までの道	伊藤　淳一
2018年11月	第13回 九州放射線医療技術学術大会	当院におけるCIScoreの参考閾値の検討	中恵　龍一
2018年11月	第13回 九州放射線医療技術学術大会	T2Prep·Dixonを併用した1.5T下肢動脈心電非同期COR撮像法の検討	馬場　隆治
2018年12月	第41回 九州IVR研究会	腹部血管造影用の簡易防護板の検証	伊藤　淳一

【臨床検査技術部】

「中央分析室」「病理細胞診室」「微生物室」「生理超音波室」の4部署から構成されており、一日も早い患者さんの社会復帰を実現するために、職員一丸となって最新の検査技術・知識を駆使し業務に当たっています。当部門は臨床検査の国際規格であるISO 15189「臨床検査室―品質と能力に関する要求事項」を、長崎県で第1番目（全国65番目）に取得した認定検査室です。当院、臨床検査技術部で測定・報告された検査データは、国際的にも通用するものです。

ISO 15189 認定シンボル

主な施設基準

ISO 15189認定施設

精度保証施設認証 取得施設（JCCLS、日臨技）

長臨技データ標準化委員会基幹病院

職員配置

	常勤	非常勤(常勤換算)	合計(常勤換算)
医師	2人	―	2人 (2人)
臨床検査技師	28人	7人 (6人)	35人 (34人)
助手	―	2人 (1.5人)	2人 (1.5人)

取得認定資格

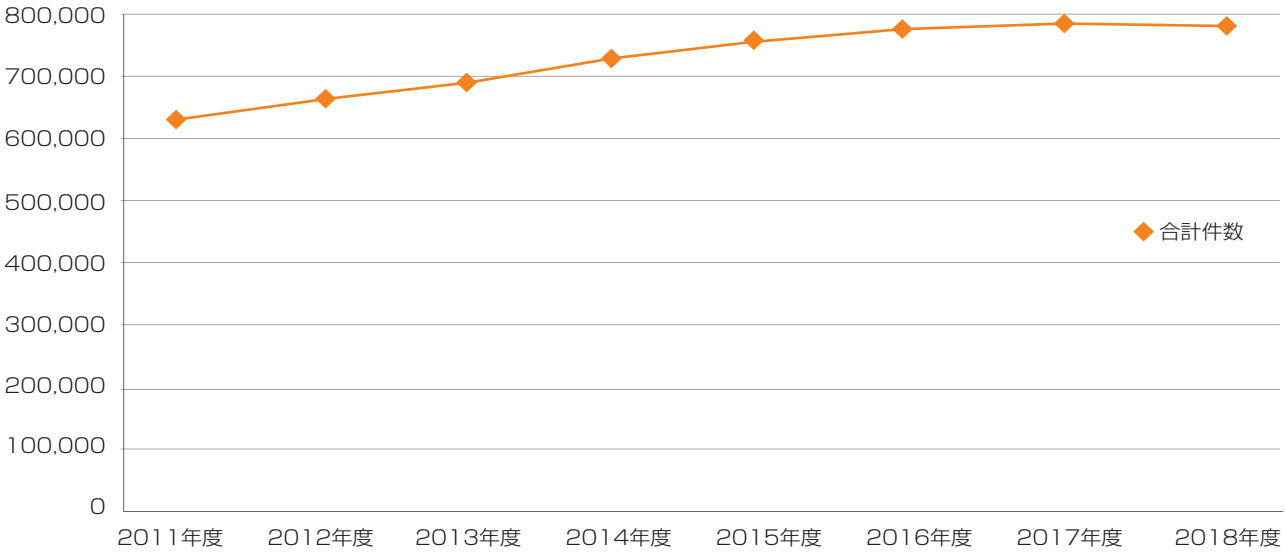
細胞検査士……5名
超音波検査士……4名（実人数）
（消化器4名、循環器2名、体表臓器1名、健診1名）
血管診療技師……1名
認定輸血検査技士……2名
認定心電検査技師……1名
認定病理検査技師……1名
認定一般検査技師……1名
認定救急検査技師……3名
認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師…1名
認定認知症領域検査技師……1名
糖尿病療養指導士……3名
二級臨床検査士……5名
（病理学2名、微生物学2名、免疫血清学1名）
心臓リハビリテーション指導士……1名

活動状況

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
生化学・免疫	264,069	279,393	297,765	305,429	315,310	336,581	342,350	340,770
血液・一般・輸血	247,954	259,684	277,257	294,071	300,869	308,476	313,553	314,162
生理・超音波	33,639	35,901	37,618	40,815	41,965	43,468	43,775	44,715
微生物	12,259	11,988	13,994	14,626	13,399	12,555	13,644	14,157
病理・細胞診	6,534	6,871	6,662	7,025	7,614	7,545	7,514	7,181
外来採血	43,671	44,923	45,642	45,461	45,670	45,719	44,864	44,721
外注	15,050	15,337	16,835	16,477	17,454	17,199	17,779	17,245
合計件数	623,176	654,097	695,773	723,904	742,281	771,543	783,479	782,951

病理解剖	10	21	10	14	12	11	10	10

◆合計件数



重点目標・評価と来年度への展開

2019年度は新たな人材を4名採用しマンパワーの充実を図ります。新たな人材を含めたスタッフの教育・訓練を強化し、拡大する臨床検査へのニーズに柔軟に対応できる体制の整備を推進します。またISO 15189認定においては、県内の認定施設と連携を深め、地域の臨床検査の品質向上に努めてまいります。

学会発表・講演実績

学　会　名	演　　題	
第67回日本医学検査学会	医療法･臨検法改正の経過	丸田　秀夫
第107回日本病理学会総会	病理検体確認作業における ウェアラブルカメラ･デジタルカメラ使用の試み	片 渕　　直
多種職連携のための 臨床検査技師能力開発講習会	臨床検査技師が他職種業務を知る意義	安東摩利子
第12回長崎県臨床微生物研究会	ISO15189の指摘事項について	伊藤　将大
第56回日本糖尿病学会九州地方会	当院でのフットケアへの臨床検査技師の関わり	影平　宏美
九州医学技術専門学校　講演	臨床検査技師の仕事について	猪股奈津子
九州臨床検査品質保証研修会　in長崎	精度管理標準作業書と管理記録	安東摩利子
第65回　日本臨床検査学会学術集会	多種職連携と臨床検査	丸田　秀夫
第13回白十字会臨床検査研究会	脂肪肝合併2型糖尿病におけるFib4indexの有用性	奥野　香澄
第13回白十字会臨床検査研究会	たこつぼ型心筋症と急性冠症候群について	瀬川　美桜
第13回白十字会臨床検査研究会	肺癌検査の精度管理について	福島　成希
第五回遺伝子・染色体研修会	がんゲノム医療で求められる遺伝子関連染色体検査の 精度保証について	丸田　秀夫
長崎県医学検査学会	当院臨床検査技術部における新人育成について	瀬川　美桜
平成30年度 日臨技九州支部臨床検査総合部門研修会	各部門における法改正への実際の対応　生化学・免疫部門	安東摩利子
平成30年度 日臨技九州支部臨床検査総合部門研修会	各部門における法改正への実際の対応　病理部門	片 渕　　直

【臨床工学部】

臨床工学技士は医師の指示のもと、循環･呼吸･代謝機能を代替、補助する生命維持管理装置の操作、保守点検を担当する技術者のことで、ME(Medical Engineer)や、CE(Clinical Engineer)と呼称されています。

近年の高度先進医療の目覚しい発展と共に医療機器も複雑化、多様化しており、我々、臨床工学技士が医療機器の購入から運用、廃棄まで一貫して管理を行い、患者さんはもちろん、現場スタッフにも安心して使用して頂ける医療機器の提供と共に臨床技術の提供、現場スタッフへの教育などを行っています。

現在男性8名、女性4名の計12名の臨床工学技士が在籍しており、血液浄化業務、手術室業務、医療機器管理業務、不整脈治療業務、温熱療法業務、睡眠時無呼吸外来業務、待機、当直業務、医療ガス設備管理業務などを365日24時間体制で行っています。

主な施設基準

医療機器安全管理加算1　透析液水質確保加算　MRI対応植込み型デバイス装着患者のMRI検査
冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術
経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈血栓除去術及び経皮的冠動脈ステント留置術
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法　呼吸ケアチーム加算
経皮的カテーテル心筋焼灼術　経皮的中隔心筋焼灼術　内視鏡手術用支援機器加算

職員配置

認定資格	体外循環技術認定士	2名
	呼吸療法認定士	1名
	特定化学物質等作業主任	2名
メンテナンス認定	人工呼吸器Servo i/Sプリベンティブメンテナンス講習会	7名
	人工呼吸器ピューリタンベネット700シリーズミドルコース	3名
	人工呼吸器ピューリタンベネット700シリーズアドバンスコース	5名
	低圧持続吸引器MS-008メンテナンス講習会	2名
	輸液ポンプTE-131メンテナンス講習会	8名
	輸液ポンプTE-161Sメンテナンス講習会	5名
	輸液ポンプOT-808メンテナンス講習会	2名
	シリンジポンプTE-331S/322Sメンテナンス講習会	4名
	シリンジポンプSP-115メンテナンス講習会	1名
	シリンジポンプTE-351/352メンテナンス講習会	5名
	シリンジポンプSP-120メンテナンス講習会	1名
	空気圧式マッサージ器SCDテクニカルトレーニング	12名
スタッフ構成	臨床工学技士	12名

活動状況

ME機器	使用件数
シリンジポンプ	5,336
輸液ポンプ	4,527
医薬品注入コントローラ(ドリップアイ)	1,323
経腸栄養剤投与輸液ポンプ(アプリックススマート、Amika)	12
携帯型輸液ポンプ(PCAポンプ)	4
SPO2モニター	87
モニター	185
人工呼吸器	146
非侵襲型呼吸器	188
二相式陽圧ユニット(オートセットCS)	3
エアロネブ	37
低圧持続吸引機(メラサキューム)	307
超音波装置	552
逐次型空気圧式マッサージ器(フットポンプ)	734
ネーザルハイフロー	31
合計	13,472

ME機器修理件数	
自部署	662
業者	149
合計	811

透析機器	使用件数
透析供給装置	312
A剤自動溶解装置	312
B剤自動溶解装置	312
RO装置	312
患者監視装置	13,027
合計	14,275

アフェレーシス関連		
CHDF	症例数	22
	治療件数	193
エンドトキシン吸着療法	症例数	10
	治療件数	12
単純血漿交換	症例数	5
	治療件数	16
LDL吸着療法	症例数	2
	治療件数	5
L-CAP	症例数	0
	治療件数	0
G-CAP	症例数	2
	治療件数	19
腹水濃縮	症例数	2
	治療件数	3
合計	症例数	43
	治療件数	248

温熱治療	合計
導入数	10
治療件数	106

補助循環装置	使用件数
PCPS	14
IABP	23
合計	37

自己血回収装置	使用件数
	52

レーザー焼灼術	使用件数
	172

ECC	合計 45

OPCAB	合計
	8

神経刺激装置	
SEP	2
MEP	23
合計	25

カテーテルアブレーション	合計
	15

重点目標・評価と来年度への展開

■業務拡大

ペースメーカー関連業務ならびに透析センターにおける看護師とのPNS推進

■タスクシェア・タスクシフト

医師、看護師における業務移管推進。管理機器の見直し推進。

■業務効率向上

働き方改革における、業務の見直しとスリム化。IT等を使用した、業務効率化の向上。

■人材育成

ローテーションを基本に、主体性を持った人材育成と人員確保の推進。

学会への参加

学会名	演題
第13回 九州臨床工学技士会 第11回 長崎臨床工学技士会	透析装置の変更における 臨床工学技士の役割と現状報告
	当院でのVPP契約機器の 故障発生状況報告
第44回 日本体外循環技術医学会大会	人工心肺開始後の 人工肺入口圧力上昇に対し 人工肺全交換を行った1例
日本医療マネジメント学会 第19回 長崎支部学術集会	当院における臨床工学部の医療安全管理への関わり ～医療安全地域連携活動に初めて臨床工学技士が参加して～
	在宅人工呼吸器導入における臨床工学技士の役割
第21回 長崎県消化器内視鏡技師研究会	当院の内視鏡業務及び今後の課題

【リハビリテーション部】

長崎県下の急性期病院の中でも最多のスタッフ数を誇り、安全で効果的なリハビリテーションを365日体制で提供しています。対象患者も術後早期から緩和医療の患者まで幅広く、「いつでも、どこでも、誰にでも」をモットーに必要性のある患者に十分な量のリハビリテーションを実施しています。

主な施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ
廃用症候群リハビリテーション料Ⅰ
運動器リハビリテーション料Ⅰ
呼吸器リハビリテーション料 Ⅰ
心大血管疾患リハビリテーション料 Ⅰ
がん患者リハビリテーション料

取得認定資格

認定理学療法士(管理･運営)……1名
認定理学療法士(脳卒中)……3名
認定理学療法士(運動器)……2名
認定理学療法士(呼吸)……2名
認定理学療法士(循環)……2名
認定理学療法士(代謝)……1名
認定言語聴覚士(摂食嚥下)……1名
3学会合同呼吸療法認定士……4名
心臓リハビリテーション指導士……2名
日本糖尿病療養指導士……1名
ボバース3週間基礎講習……2名
ボバースイントロダクトリーモジュール……2名
介護支援専門員……5名
福祉住環境コーディネーター2級……19名
福祉用具プランナー……6名
摂食嚥下コーディネーター……5名
メンタルヘルスマネジメントⅡ種……4名
メンタルヘルスマネジメントⅢ種……4名

職員配置

	常勤
理学療法士(PT)	27人
作業療法士(OT)	14人
言語聴覚士(ST)	8人

活動状況

■部門別実施件数

単位：件

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
入院	PT	35,770	40,399	40,656	41,312	41,780
	OT	28,886	30,642	27,005	22,643	20,374
	ST	12,222	13,842	11,051	8,687	8,494
	合計	76,878	84,883	78,712	74,659	70,648
外来	PT	1,587	2,658	3,188	2,365	2,611
	OT	568	806	714	679	463
	ST	220	258	183	127	174
	合計	2,375	3,722	4,085	3,171	3,248

■疾患別内訳 FIMによる効果判定

単位：件

		件数	全体	
			Gain	Efficiency
全体		2,221	24.94	1.46
外科		288	33.33	1.86
脳神経外科		428	28.22	1.51
整形外科		299	24.74	1.71
心臓血管外科		145	44.00	2.22
循環器内科		214	35.34	2.05
消化器内視鏡科		295	13.59	0.99
内科	リウマチ	206	14.30	0.88
	糖尿病	44	16.16	0.92
	呼吸器	151	15.30	0.91
	その他内科	114	14.78	0.66
その他		37	12.84	0.76

FIM(機能自立度評価表)とはADLを評価する評価法のひとつです。FIMは、運動13項目と認知5項目の計18項目で評価します。採点基準は、介護量を7点から1点で評価します。(7点完全自立、6点修正自立、5点監視･準備、4点最少介助、2点最大介助、1点全介助)

重点目標･評価と来年度への展開

2018年8月より地域包括ケア病棟を開設したことで、当院のリハビリテーション機能が急性期から回復期まで、幅広く対応できるようになりました。2016年度から導入した病棟窓口や病棟専属の機能も、更なる充実を図りながら、これまで以上に院内連携に努めていきたいと考えています。

学会発表実績

【全国】

学　会　名	演　　題	発　表　者
第24回 日本心臓リハビリテーション学術集会	虚血性心疾患における骨格筋指数と運動習慣との関連	川上　章子

【九州】

学　会　名	演　　題	発　表　者
九州PT･OT合同学会	サロン活動前後の身体機能の変化について	朝里　良太
リハビリテーション・ケア合同研究大会	臨床業務に必要なリハビリテーション分野における基礎知識と技術を習得するための教育システムの構築	向江　大輔
第8回 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in大分	被殻出血症例に対して脳機能メカニズムを考慮し、ロボットスーツHALを使用した一症例	馬渕　重雄
第56回 糖尿病学会九州地方会	診察待ち時間に行えるゴムバンド体操について～DVDに対する職員向けアンケートの実施～	山口　宣人
第56回 糖尿病学会九州地方会	当院2型糖尿病患者で認知機能が運動療法に及ぼす影響について	室島　央典
第2回 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	踵骨骨折術後の後足部治療に着目した一症例	中島　拓哉
日本医療マネジメント学会第17回九州・山口連合大会	当院リハビリテーション部における動画を導入した安全教育の取り組みについて	末武　達雄

【県内】

学　会　名	演　　題	発　表　者
第3回 長崎再生医療とリハビリテーション研究会	被殻出血症例に対して脳機能メカニズムを考慮しHALを使用した一症例	馬渕　重雄
長崎県北脳卒中研究会	退院後生活を見据えた急性期リハビリテーションのチームアプローチ～退院することが目標ではなく退院後生活をゴールに～	山口めぐみ
第30回 長崎県理学療法学術大会	気管切開下人工呼吸器装着患者の自宅退院に向けた取り組み	山中　博紀
第30回 長崎県理学療法学術大会	家族で支え合うことで自宅退院が実現したStanfordB型急性大動脈解離の一症例	浦　佑亮
長崎県心臓リハビリテーション研究会	退院前後訪問を通じて生活環境の調整が図れた慢性心不全の一例	麻生　勝也
第52回 長崎県作業療法学会	当院の地域包括ケア病棟の開設と運営状況について	末武　達雄

講演･学術活動

学　　会　　名	演　　題	講　師
将来構想　地域②チーム	通所リハ研修会	坂本　智紀
サロンサポーター育成研修会	介護予防について、住民活動の目的と方法	兼石　　匠
サロンサポーター育成研修会	運動機能のトレーニング	兼石　　匠
疾患別作業療法学の講師（長崎リハビリ学院　授業講師）		末武　達雄
前頭葉を鍛えるプログラム	実施前後の検査	麻生沙弥香
メモリークラス初級編	BPSDについて	麻生沙弥香
サン通所職員向け勉強会	各種体操メニュー（排泄動作･更衣動作･整容動作）	松ヶ野友幸
サン通所職員向け勉強会	ADLに繋がるための体操	北御門香菜子
サロンサポーター育成研修会	介護予防について、住民活動の目的と方法	兼石　　匠
前頭葉を鍛えるプログラム	実施前後の検査	麻生沙弥香
ユマニチュード基礎研修	新人、中途入職者向け	末武　達雄
日本AKA医学会 理学･作業療法士会 九州沖縄ブロック	第98回地域技術研修コース	馬渕　重雄
鹿町自由大学	コグニサイズ	朝里　良太
整形外科勉強会	肩腱板断裂について	松ヶ野友幸
メモリークラス中級編	「DLBの対応」の寸劇	麻生沙弥香
介護連携報告会	心不全ってなあに?	鬼﨑　仁志
SRST研修会	挿管患者の体位ドレナージについて	田中亜憂美 谷内　涼子
中部地区地域ケア会議勉強会	腰痛･膝痛時の掃除のポイント	朝里　良太
第100回AKA地域技術研修（福岡）		馬渕　重雄
認知症予防トレーナー	コグニサイズ	麻生沙弥香
前頭葉を鍛えるプログラム	コグニサイズ	麻生沙弥香
メモリークラス中級編	BPSDに対する対応	麻生沙弥香
長崎摂食嚥下リハビリテーション研究会	摂食嚥下障害患者のリハビリテーション	山口めぐみ
みなと会総会	寝たきりと認知症 ～運動と栄養での工夫～	山口　宣人
整形勉強会（分散教育）	腱板断裂術後管理について	山口　宣人
地域講演（吉福公民館）	サルコペニア	山口　宣人
出前講座（花高2組講演）	認知症について	坂本　智紀
3南病棟分散教育	関節リウマチのリハビリテーション	谷村　祐香
メモリークラス中級編	BPSDに対する対応	麻生沙弥香
看護部分散教育（Ope室看護師向け）	術後の呼吸器合併症を予防し、早期離床を目指すための術前呼吸リハビリテーション	川上　章子
認知症疾患医療センター主催	前頭葉を鍛えるプログラム「コグニサイズ」	麻生沙弥香
在宅支援育成プログラム	認知症の理解	麻生沙弥香
出前講座（地域講座）	サルコペニアについて	森　　幸一
メモリークラス中級編	認知症の対応の仕方	麻生沙弥香
出前講座	サルコペニアについて	森　　幸一
看護部分散教育	術中におけるポジショニング	川上　章子 石丸　寛人

【栄養管理部】

栄養管理部の業務は主に「栄養指導」「栄養管理」「給食管理」です。

栄養指導では糖尿病センターでの継続した栄養看護外来を中心に、外来、入院患者さんに対して病態別に栄養指導を行っています。集団栄養指導として糖尿病教室を毎週月～金曜日に開催しています。

病棟での栄養管理は入院時の栄養スクリーニングから始まり、定期的なアセスメント、多職種と協働した食形態の適正化、病態を考えた栄養量の確認、食事内容や経腸栄養剤の検討、食事個別化への工夫などです。また毎週金曜日には多職種による栄養カンファランス、回診を行っています。

給食管理では、病態に合った食事の提供とともに、異物混入防止策など委託会社と協力して取り組んでいます。

主な施設基準

食事療養I

栄養サポートチーム加算

職員配置

	常勤
管理栄養士（常勤）	10人

取得認定資格

管理栄養士……10名
NST専門療法士……1名
病態栄養認定管理栄養士……1名
日本糖尿病療養指導士（CDEJ）……6名
NST専任・専従資格者……8名
摂食・嚥下コーディネーター……4名
食生活アドバイザー……1名
調理師……1名
栄養経営士……1名

活動状況

■栄養指導、療養支援・相談、栄養介入件数

栄養看護外来（療養支援・相談）	2,993件	
入院個別栄養指導	1,008件	
外来個別栄養指導	482件	
透析糖尿病予防指導	17件	
集団指導（糖尿病教室）	参加延数	1,582人
栄養介入件数	549件	
栄養情報提供書	774件	

■イベント食開催および参加患者数

開催数：8回
［5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、3月］

参加延数:224名

■給食内訳

一般食	114,798食
特別食	114,366食

重点目標・評価と来年度への展開

法人内の管理栄養士で定期的に会議を行い情報の共有と、継続した栄養管理を行うために何が必要かを検討してきました。その中で「栄養情報提供書」の統一化を行いました。これにより必要な情報を今までより短時間で作成することができるようになりました。また嚥下調整食の名称が施設で異なっていたため、各施設の嚥下食を学会分類に基づき分類し、「嚥下調整食ピラミッド」を作成しました。各施設の「嚥下調整食ピラミッド」を互いに共有することでスムーズな栄養管理へ繋げることができればと思っています。急性期を退院された患者さんが次にどの病院、施設に行かれるのか、また自宅に戻られた後は何が必要なのかを考えた対応が求められています。切れ目のない栄養管理を目指し、各施設間で共に理解を深めること、協働することが今後更に大切になると考えています。

学会･研修会への参加実績

学会/セミナー	演　題　名	演　者
日本糖尿病学会年次学術集会	高齢糖尿病患者のフレイル調査	貴島左知子
	食事記録から算出した管理栄養士間の栄養量の差異 および自己学習による栄養産出量の比較	江口　　愛
日本糖尿病学会九州地方会	食行動が理想と離れている人の身体的･心理的特徴について	貴島左知子
	当院における糖尿病教育入院患者のサルコペニア実態調査	松永　大輝
	整形病棟における糖尿病患者と 糖尿病でない患者のフレイルの点数の比較	山下祐理子
日本病態栄養学会	簡易問診票を用いた高齢糖尿病患者のフレイル調査	貴島左知子
糖尿病診療を考える会	糖尿病透析予防指導	貴島左知子
大分 糖尿病 地域医療フォーラム	佐世保ブルーサークルにおける栄養指導	貴島左知子

地域共同学習会	演　題　名	演　者
私たちが、 糖尿病患者さんにできる事	間食、減塩について	貴島左知子
高齢者の摂食嚥下障害	高齢者の栄養管理について	八木　計佑

【感染制御部】

病院は「病原菌を持った人」と「病気になって免疫が落ちている人」が集中する特殊な環境のため、何も対策がとられなければ感染は起こって当然という環境にあります。感染制御部はこうした危険性を予測し、「病院に関わるすべての人を医療関連感染から守る」ことをモットーに、調査監視を行い、最新の感染防止技術の導入と徹底、感染防止教育などを行っています。

2007年6月1日に感染制御部が新たな部門として設立されました。2011年11月に室長が退職され、CNIC（Certified Nurse Infection Control：感染管理認定看護師）の専従の一人体制でしたが2012年9月より事務員が兼任で配置されるようになりました。多数のICD（Infection Control Doctor：感染制御医）や薬剤師、臨床検査技師、法人内認定感染管理ナース、感染対策委員会メンバーと連携をとって、感染対策を推進しています。

主な施設基準

感染防止対策 加算1
感染防止対策 地域連携加算
抗菌薬適正使用支援加算

取得認定資格

・感染管理認定看護師　・第二種滅菌技師
・口腔ケア認定4級　・整理収納アドバイザー2級
・環境サービス認定専門家

職員配置

	常勤
専従看護師	1人
事務および兼任スタッフ	4人

活動状況

■研修会の開催（一部紹介）

実施日		実施部署・対象	研修内容	講師	参加人数
4月	2日	新入職員全員	医療関連感染対策概論	奥田　聖子	69名
	4日	看護部新人	院内感染防止対策について・パート1	奥田　聖子	18名
6月	12日	全職員	感染対策と抗菌薬適正使用について	岩村　直矢	170名 611名
7月	9日	看護部新人	院内感染防止対策について・パート2	奥田　聖子	17名
8月	3日	中途採用者（院内・院外問わず）	院内感染防止対策について・パート1,2	奥田　聖子	16名
	4日	子供探検隊参加者	子供病院探検隊 ～手洗いマスターになろう～	奥田　聖子	22名
	10日 16日 20日	看護補助者	看護補助者研修	奥田　聖子	37名
	11日	看護師（院内・院外問わず）	SSI、洗浄、消毒、滅菌	四宮　聡	19名
9月	26日	施設職員	感染予防について	奥田　聖子	40名
11月	2日	感染担当者	冬季感染予習講座	奥田　聖子	11名
	7日	中途採用者（院内・院外問わず）	院内感染防止対策について・パート1,2	奥田　聖子	16名
	13日	全職員	インフルエンザ・ノロ・ASTについて	奥田　聖子	156名 623名

■冬期感染予防キャンペーン
■感染管理地域連携相互チェック４回
■感染管理加算を取得している保険医療機関とのカンファレンス4回
■ワクチン接種の推進
（HBV･入職時の流行性四疾患の抗体価の確認）
■インフルエンザワクチン接種率96%

重点目標･評価と来年度への展開

2018年は院外研修や公開研修を12回開催し、全部で27回の研修を開催しました。

2019年も院内、院外研修会を充実させ医療従事者の知識と技術の向上に寄与できるように取り組みます。写真は手洗い選手権の入賞者です!
またHBワクチンの接種の推進、および、インフルエンザワクチンの接種率90%以上など感染が起こりにくい環境の維持に努めます。

手洗い選手権　表彰式の様子

学会･研修会参加発表実績

日　付	学　会　名
2018年　4月13日	感染管理セミナーIn長崎
2018年　5月12日	感染管理ベストプラクティス研修会【大阪】
2018年　5月25日･26日	ICNJ参加【仙台】
2018年　4月28日・6月2日・9月29日	感染管理ベストプラクティスSaizen研究会 長崎佐賀WG【諫早】
2018年　9月1日	感染対策研修会【福岡】
2018年　10月20日	感染管理セミナーIn長崎 発表
2018年　11月14日	CDIガイドラインを踏まえた新たな戦略
2018年　12月16日	AMR対策セミナー【福岡】
2019年　2月2日	AMR対策セミナー【長崎】
2019年　3月30日	FOSS研鑽会【福岡】
2019年　3月30日	第16回北部九州感染制御研修会【福岡】

【医療安全管理部】

医療安全管理部は、専従医療安全管理者を配置し、病院長直轄の独立した部門として組織内に位置します。院内で発生した事例に関して、基本的には当該部署が初期対応し、その内容によっては、医療安全管理部が検証･共有･支援を行います。

主な施設基準

医療安全対策加算1

取得認定資格

医療安全管理者……1名

職員配置

医療安全管理部		常勤専従	常勤専任･兼任		非常勤数
			人数	常勤換算	
総数		1人	17人	8.5人	
	診療放射線技師		1人	0.5人	
	看護師(専従医療安全管理者)	1人			
	事務員		1人	0.5人	
	放射線技術部専任者		1人	0.5人	
	臨床検査技術部専任者		1人	0.5人	
	リハビリテーション部専任者		1人	1.0人	
	医療事務課専任者		1人	1.0人	
	健康管理部専任者		1人	0.5人	
	システム開発室専任者		1人	0.5人	
	医局専任者		2人	1.0人	
	看護部専任者		2人	1.0人	
	臨床工学部専任者		1人	0.5人	
	栄養管理部専任者		1人	0.5人	
	資材課専任者		1人	0.5人	
	認知症疾患医療センター専任者		1人	0.5人	
	薬剤部専任者		1人	0.5人	

活動状況

①医療安全教育･研修
･新人職員&中途採用者対象安全研修基礎　シリーズ Ⅰ～Ⅲ
･医療安全全体研修(前期･後期)
･分散教育　各部の代表専任者による企画運営にて実施
②安全教育教材の作成:医療安全教育動画教材の作成(3テーマ)
③白十字会グループ安全管理協議会の企画･運営･実施
④医療安全管理Institute開催
⑤医療安全地域連携相互ラウンドチェック実施(医療安全対策加算1)

重点目標・評価と来年度への展開

・患者・職員などのサービスの向上：安全に関する情報提供
・医療安全対策の継続：医療安全対策地域連携加算の取得
・医療安全管理部活動の充実：法人グループ内安全活動の推進
・職員の医療安全における知識・技術の向上：安全教育環境の向上と活用

学会発表実績

学　会　名	発　表　演　題
日本医療機能評価機構患者安全推進協議会 薬剤安全セミナー	シンポジスト 手術および侵襲的検査・処置前に中止が必要な薬剤の 安全な取り扱いについて
第20回日本医療マネジメント学会学術総会（札幌）	現場における医療安全推進者の育成
日本医療マネジメント学会 第17回九州・山口連合大会	医療安全対策・成功事例共有の試み
医療マネジメント学会長崎支部学術集会	当院における臨床工学部の医療安全管理への関わり

院外講演（講義）活動の実績

主催および会場	演題および講演内容
熊本県医療法人協会	管理者の医療安全
みさかえの園総合発達医療福祉センター	医療安全教育の基礎
長崎県立大学シーボルト校	医療安全管理
九州文化学園高等学校衛生看護科専攻科	看護と安全
佐世保市医師会看護専門学校准看護科64回生	医療安全管理
佐世保市医師会看護専門学校准看護科63回生	卒業前講話　医療安全

【臨床研究管理部】（治験管理室）

治験管理室における治験事務局業務（治験審査委員会事務局を兼ねる）および治験コーディネーター（CRC）業務に基づいて治験を管理･支援する機能の他、臨床研究を管理･支援する機能を有し、治験による先端医療の提供･次世代の新薬開発への協力および臨床研究のサポートを通じて、社会医療法人として社会的責任の一端を果すため日々活動しています。

職員配置

		職　　種	常　勤	非常勤	派　遣
臨床研究管理部		薬剤師	1人		
		助　手(※1)		2人	
	治験管理室	ＣＲＣ(※2)			5人

（※1）リウマチ膠原病領域と糖尿病領域の研究のデータ･マネジメントを担当

（※2）CRCは、SMO（治験実施施設支援機関）との契約に基づく派遣。（治験事務局業務担当を含む。）

取得認定資格

JASMO公認CRC(※3)……5名

（※3）JASMO公認CRCは、日本SMO協会が優れた資質向上を目的に、認定試験に合格したCRCを臨床試験のスペシャリストとして公認するものです。

活動状況

	疾患領域	契約件数（プロトコル数）			契約症例数			実施症例数		
①治験	リウマチ	継続	11	計15	継続	74	計91	継続	62	計75
		新規	4		新規	17		新規	13	
	SLE	継続	3	計5	継続	8	計12	継続	7	計11
		新規	2		新規	4		新規	4	
	SpA	継続	2	計2	継続	2	計2	継続	2	計2
		新規	0		新規	0		新規	0	
	シェーグレン	継続	1	計1	継続	4	計5	継続	4	計5
		新規	0		新規	1		新規	1	
	多発性筋炎	継続	1	計1	継続	2	計2	継続	1	計1
		新規	0		新規	0		新規	0	
	糖尿病	継続	6	計6	継続	42	計42	継続	40	計40
		新規	0		新規	0		新規	0	
	呼吸器	継続	3	計3	継続	7	計7	継続	7	計7
		新規	0		新規	0		新規	0	
	レビー小体型認知症	継続	0	計1	継続	0	計4	継続	0	計0
		新規	1		新規	4		新規	0	
		合　計		34	合　計		165	合　計		141

② 新規治験スタートアップ会議の開催件数	計7回（RA:SLE:2回、レビー小体型認知症:1回）
③ RA･DM臨床研究のデータマネジメントに関する実績	12研究分　（2,559症例）
④ 医薬品製造販売後調査（PMS）などの新規契約件数	年間20件
⑤ 治験審査委員会の活動状況	年間12回（毎月1回開催）、新規試験審査数年間6試験、1回あたりの継続審査試験数平均22.42試験
⑥ 倫理委員会の活動状況	開催数計14回（通常審査0回、迅速審査14回）、審査研究数42
⑦ 臨床研究管理部通信（院内報）の発行実績	年間12号（毎月1回）発行

■臨床研究管理部の業務

1.治験の管理および支援に係る業務
2.臨床研究の管理および支援に係る業務
3.医薬品製造販売後調査(PMS)の管理および支援に係る業務
4.治験審査委員会の運営に係る業務
5.倫理委員会の運営に係る業務
6.臨床研究の各種指針の教育・啓蒙に係る業務
7.その他の業務

■治験実施医療機関の要件(GCP省令より)

※当院は、この要件を満たしています。

・十分な臨床観察・試験検査を行う設備・人員を有していること
・緊急時に被験者に対して必要な措置を講ずることができること
・治験審査委員会が設置されていること
・治験を担当する医師、薬剤師、看護師、CRCなどの必要な職員が十分に確保されていること

■研修会の開催実績

2018年 8月20日　臨床研究に関する院内講演会
2018年12月27日　第6回学会賞等受賞記念学術講演会

重点目標・評価と来年度への展開

■重点目標・評価

今期の治験(継続+新規)の契約試験35件は維持したが契約症例は160例と未達、一方RA領域の多施設共同研究を継続してサポートしました。また、臨床研究法および次世代医療基盤法の啓蒙を行うとともに、臨床研究に関する院内講演会を8月20日に開催しました。

■2019年度への展開

来期の治験(継続+新規)の契約試験35件と契約症例170例を目指すとともに、RA領域の多施設共同研究のサポートを継続して行います。また、臨床研究に関する包括的同意の説明を最新の規制に合わせて更新するとともに臨床研究の進捗管理を実運用化する予定です。

学会・研修会への参加・開催実績

■学会・研修会への参加実績

日　付	研　修　会　名
2018年　4月22日	日本医療薬学会　教育セミナー「臨床研究効果を論文にするために」
2018年10月27日	臨床研究を実施・支援するための研修会
2018年　11月3日	日本病院薬剤師会　臨床研究・治験事務局セミナー2018

【事務部】

◎医療事務課

「病院の顔」として、最初（受付）と最後（会計）に患者さんと接し、病院の印象を左右する部署でもあり、常に、「おもてなしの心」を忘れずに患者さんと接するように努めています。また、診療報酬請求においても、迅速かつ正確な請求ができるように、日々、努めています。

2018年度は、「しっかり挨拶·魅力アップ」「しっかり学習·能力アップ」「しっかり休憩·活力アップ」をスローガンとし、「自己研鑽」とともに「ワークライフバランス」を重視した取組みをしました。

◎診療情報管理課

さまざまな情報を一元管理し、業務の効率化を図り、診療情報を安全に管理することを重視し、医療の質の向上を図るとともに診療情報の点検ならび有効活用、提供などに努めています。

職員配置

	常勤	非常勤
医療事務課	39人	9人
診療情報管理課	5人	

取得認定資格

診療情報管理士……8名
診療情報請求事務能力試験……4名
医療事務技能検定2級……8名
医療事務技能検定3級……7名
秘書検定準1級……1名
秘書検定2級……7名
ホスピタルコンシェルジュ3級……17名
サービス接遇検定2級……4名
サービス接遇検定3級……2名
パソコン検定準2級……2名
パソコン検定3級……10名
福祉住環境コーディネーター3級……2名
ビジネス文書検定3級……5名
ビジネス事務マナー検定……1名
医療対話推進者……2名

医療事務課業務内容		
外来医事係	受付	患者さんの状況を確認しながら、迅速かつ的確な受付を行っています。
	コールセンター	「声で笑顔を伝える」をモットーに、診療科と連携を取り予約受付を行っています。
	オペレーター	外来患者さんの診療費計算を迅速かつ正確に行っています。
	会計	窓口での支払いや医療費相談の対応、日々の会計管理を行っています。
	書類査定	書類作成システム（パピルス）を活用し、書類依頼·発行·交付業務を行い、各種公費申請の手続きを行っています。診療報酬請求に対しての査定や返戻などの管理を行っています。
	未収	請求·入金·未払金額の管理をし、未払者の対応を行います。また、入院時預り金の管理、入院予定患者さんへの高額療養費や限度額認定証などの情報提供を行っています。
入院医事係		退院前日の患者さんへ概算入院診療費のお知らせを行います。また、入院中の患者さんに対し限度額適用認定証の説明や、診療費に関してのご相談も随時行っています。DPCに係るデータの提出を厚生労働省へ行っています。

診療情報管理課業務内容
院内外の各種調査やアンケートに対するデータ提出や原価計算を用いたクリティカルパスの検証を行っています。

課内BSCの取り組み	
患者さんへの助成制度などの充実した説明による患者満足度の向上	患者さんに役立つ情報（高額療養費や福祉医療など）の収集や課員の勉強会を行い知識向上させ、患者さんへの情報提供や対応をしています。また、収集した情報をリーフレットやデジタルサイネージでの掲載、ポスター掲示などの方法により患者さんへの周知を図っています。
業務レベルの統一化	算定ミスが多い項目や新たな算定項目の勉強会を行い、課員の知識向上を図り、算定誤り防止に取り組んでいます。
多職種と協力し、迅速で正確な算定を目指すとともに、査定内容を分析し、収益を確保	査定状況を医師へフィードバックし、異議申請できる項目は異議申請を行います。また、査定項目の分析を行い、医師やコメディカルと協議し査定対策（病名追加やコメント対策など）を実施します。課員へも査定項目の周知を行い、事務的査定の減少を図っています。
課内体制の見直し及び患者ファーストの意識改革	各種マニュアルの見直しを行い、常に最新保持ができる体制作りを行っています。また、業務レベルの統一を目的に担当外業務の対応ができる人材育成を行い、混雑時の業務カバーを行うことで“患者さんをお待たせしない”体制作りに取り組んでいます。

2018年度その他の取り組み

■「施設基準・適時調査対策フォーラム」の開催

2018年10月26日（金）佐世保中央病院南館5階講義室におきまして、元厚生局審査課長のご経験を経て施設基準に精通されている竹田和行先生を講師にお招きし、テーマ「施設基準・適時調査～病院経営の視点から見て～」の公演を開催いたしました。連携医療機関の医師・コメディカル・事務の皆様のご参加などもあり、総勢117名の方にご参加いただいています。

■施設基準の内部監査の実施

届出を行っている施設基準の管理はもとより、常に準拠できている状態とするために、課長並びに係長など担当において、院内の内部監査を9月11日・2月19日に行い準拠状況の確認をしております。また、2月22日の厚生局からの適時調査においても大きな指摘事項なく終えることができています。

重点目標・評価と来年度への展開

■保険診療説明会（全職員対象）

当院は「臨床研修指定病院」です。臨床研修病院入院診療加算（基幹型）を算定するにあたり、全職員を対象に年2回以上「保険診療に関する講習」を開催することが義務付けられています。本年度は「平成30年度診療報酬改定について」「DPC/PDPSと7日以内の再入院について」で開催しました。

■病棟訪室・合同カンファレンスへの参加

患者さん・ご家族の不安解消に少しでも繋がればとの思いから、「ご入院された患者さんの元へ医療事務課職員が訪室し、高額療養費の案内や療養中の質問・相談などを伺うこと」に取り組んでいます。また、医師・看護師ならびに多職種協働で開催されるカンファレンスにも参加しています。

次年度では課の目標として、①医業収益ならびに医業利益の確保に寄与できるよう査定対策強化に努める。

②病院の顔として接遇強化に努める。医事の専門知識を活かし、診療部支援ができる存在であり、患者さんに対しても、役立つ情報の提供をしていきたいと思います。

◎医局秘書課

電話交換、医局受付、病歴管理（物的）、病院の図書室（医療情報プラザ）運営、ドクター秘書業務、糖尿病センター秘書業務、RA秘書業務、研修医秘書業務を行っています。病院の図書室（医療情報プラザ）は、患者さんがご自分の病気の理解を深め、治療に参加していただくことをコンセプトに、患者さん向けの医学書を設置しています。

また、当部署は医師のさまざまなサポートをしています。特にドクター秘書は、医師の医療行為に付随する事務的作業のほとんどを担っており、医師の負担軽減に貢献しています。

主な施設基準

医師事務作業補助体制加算2　15対1

職員配置

	常勤	パート職員
事務職	7人	2人
事務職（病院の図書室）		1人
ドクター秘書	2人	25人
計	9人	28人
総数	37人	

取得認定資格

秘書技能検定（準1級）……2名
秘書技能検定（2級）……14名
ドクターズクラーク……14名
医療事務管理士……6名
医療事務技能審査（2級）……1名
ホスピタルコンシェルジュ（3級）……2名
調剤事務管理士……1名
電話検定知識A級……2名
ビジネス文書検定（2級）……2名
メンタルヘルスマネジメントⅡ種……1名
メンタルヘルスマネジメントⅢ種……7名
薬学検定（3級）……1名
ピンクリボンアドバイザー（初級）……1名
サービス接遇検定（2級）……1名
スポーツ医学検定（初級）……1名

活動状況

■電話交換業務

2018年度着信本数（平日のみ）	56,148件
お待たせコール作動本数（5回コールにて作動）	148件

■ドクター秘書業務

書類・診断書	8,798件／年
退院サマリー	4,413件／年
NCD（手術登録）	1,579件／年
症状詳記	386件／年

診療補助（電子カルテの代行入力）の様子

■病院の図書室（医療情報プラザ）

利用状況

利用者数	4,090人
貸出数（医学書）	340冊
貸出数（一般図書）	1,210冊
図書室患者向け用医学書購入数	25冊

開館：平　　日 9：00～12：00　13：00～17：00
　　第3土曜日 9：00～12：00

病院の図書室では、来館が困難な入院患者さんやご家族にもご利用いただけるよう、本のデリバリーサービスを行なっています。また、来館者にくつろげる環境を提供するために、季節を感じられるような飾り付けなども工夫しています。

重点目標・評価と来年度への展開

2018年度は、昨年度に引き続き、自部署内の業務の共有に努めました。年々、個々の業務が増加するなか、全体業務が疎かになる傾向が見られたため、年間を通して全員が全ての業務に精通できるように取り組みました。また、ドクター秘書は更なる基礎知識の習得を目的に、新たなレクチャーを企画し、新人を始めベテランも参加しレベルアップにつながったと思います。2019年度は、新人教育の更なる充実を図りたいと考えています。

◎資材課

資材課は、佐世保中央病院のみならず当法人の佐世保地区全施設において必要とする医療機器･医療材料･消耗品･印刷物などの購入を担当しています。購買担当･物品管理部署として、正確かつ迅速な物品供給業務に努めるとともに、適正なコスト管理･在庫管理にも力を入れており、業務の合理化およびコスト削減、コストパフォーマンスの向上に取り組んでいます。

当法人ではSPDシステムを導入しており、物品や業務の標準化･物流の効率化を図り、購買情報･在庫情報･消費情報の一元管理が可能となっています。SPDシステムは2003年に導入し、当時は外部委託運用なしの院内SPDで既存ベンダーパッケージを採用していました。その後、電子カルテ一体型SPDシステムの開発を模索し、2007年に自社開発の新電子カルテシステム「HOMES」と連動した独自の新SPDシステムが稼働開始しました。新SPDシステムでは、材料使用（消費）を登録することにより、補充だけでなく電子カルテへの記録、医事算定、原価計算と連動し、資材課業務に限らず各部門･部署の業務においても効率化に繋がっています。

職員配置

	資材管理本部	資材課	合計
常勤	1人	7人	8人

活動状況

■トータルコストダウン活動について

2002年度よりトータルコストダウン活動を継続的に推進しています。しかし、資材課職員による交渉のみではコストダウンに限界があるため、取引業者からの新商品･同等品提案や、職員からの提案を広く受け付けています。職員や協力会社を巻き込んで「良いものをより安く」調達することにより、より高いコストパフォーマンスを追求しています。

■取引業者からの提案件数およびコストダウン実績

	取引業者提案件数	コストダウン実績	コストダウン目標	達成率
2018年度	13件	5,022,724円	4,000,000円	125%

重点目標･評価と来年度への展開

2018年度は、コストダウン目標400万円を達成したものの、診療報酬改定に伴う医療材料の価格変動が購入価格へ大きく影響し、採用品の価格交渉が難航したことにより、トータルコストダウン活動に対して十分に取り組めなかった一年となりました。

2019年度は引き続き目標400万円の達成を目指してコストダウンに取り組みながら、患者さんが必要とする高機能高品質の物品選定と効率的な物品供給に努め、医療の質の向上に貢献できるよう取り組んでいきます。

◎施設課

患者さんや職員の方々が安全快適に過ごしていただけるよう災害安全対策や院内外設備（電気設備、空調設備、防災設備）などの維持管理業務を行っています。また公用車運用管理や送迎業務を行っています。

職員配置

施　設　管　理　室	施　設　課	
1人	8人	
	設備管理員（5名）	車両管理員（3名）

■設備管理

院内外すべての設備機器の管理及びメンテナンス業務を行い、常に監視し不具合等の早期発見に努めています。また地球温暖化を意識した省エネ機器の新規導入や適正な設備運用にも心がけています。

空調設備　：　防災センターより主要空調の一括監視及び操作、定期的なメンテナンス業務を行っています。
衛生設備　：　最新の衛生器具の管理及び給排水設備のメンテナンスを行っています。
電気設備　：　デマンド制御により電力の管理及び省エネ対策としてLED化の推進を行っています。
防火防災設備　：　院内の防火設備メンテナンスと年間を通し防火訓練と防災訓練の指導を行っています。
営繕・修理　：　上記の設備以外でも建物の修繕や、職員からの修理依頼なども行っています。

■車両管理

公用車・駐車場の維持管理および整備を行い、当院をご利用される方々やドクターならびに職員の送迎も行っています。

■防火・防災・防犯対策

防火・防災対策：防火避難訓練（年4回）、地震避難訓練（年1回）、大規模災害訓練（年1回）、防火教育
防　犯　対　策：セキュリティーの強化としてガードマンの増員配備、管理区域の電子施錠、防犯カメラの設置

■環境対策

1.感染症対策

各病棟には、気化式埋込型加湿装置を導入設置しインフルエンザ予防対策に努めています。また南館1階に設置している感染外来をはじめ各病棟には、陰圧の部屋を設置し院内感染予防にも努めています。

2.省エネ対策

佐世保中央病院は、2008年の省エネ改正により第2種エネルギー管理指定工場とされ省エネルギーに努めることになりました。

省エネ活動

・省エネ委員会の設立　・デマンド制御による電力の管理　・LED化の推進　・適切な空調管理・運用
・省エネの啓蒙（全体研修講演）など

患者様の入院生活や職員の業務に支障がないよう心がけて取り組んでいます。

重点目標・評価と来年度への展開

ミッション：白十字会の施設（建物・設備）を利用する人々（顧客）のために、良質な施設とサービスを効率的に提供する。

ビジョン：時代のニーズに的確に対応し、ミッションを全うするために、施設課の組織と施設課職員の能力を常に高める。

◎システム開発室（法人本部：医療情報本部）

システム開発室は白十字会グループの医療情報本部に所属し電子カルテをはじめとした医療情報システムの開発／運用、法人各施設およびグループ施設のICT(情報通信技術／設備)に関する業務分析、システム設計、プログラム製造／改修、システム運用／管理を行っています。

職員配置

常　勤	合　計
13人	13人

取得認定資格

資　格	資　格	人数
ICTプロフィシエンシー検定試験（旧パソコン検定）	ICTプロフィシエンシー検定協会（旧パソコン検定協会）	1名
初級医療情報技師	JAMI（一般社団法人　医療情報学会）	5名
応用情報処理技術者	IPA（独立行政法人　情報処理推進機構）	3名
医療情報システム監査人	MEDIS-DC(一般財団法人 医療情報システム開発センター)	1名
秘書検定2級	公益財団法人　実務技能検定協会	1名
ITパスポート	IPA（独立行政法人　情報処理推進機構）	1名

■佐世保中央病院

◎職員向け操作説明マニュアルの制作

◎他施設訪問

他施設のPCの管理

◎HOMES端末適正化

•稼働時間集計

◎セキュリティ情報掲示

•月1回のセキュリティ情報掲示

◎データ二次利用環境の整備

◎介護システム一元化に向けた作業計画策定

◎勤退管理電子化の拡大と確実な記録

◎他部署の業務体験・学習、他職種業務知識の向上

◎業務時間把握への試行、業務時間の把握

■生産性指標（依頼作業量）

開発　2017年度受付　ソフトウェア開発依頼書（返却・不具合除く）

	依頼総数	完了数	完了率	完了率前年比
2017年度	204	193	94.6%	101.9%
2016年度	223	207	92.8%	115.6%

運用　2017年度受付　作業依頼書（画像取出し除く）

	依頼総数	完了数	完了率	完了率前年比
2017年度	796	792	99.5%	103.7%
2016年度	830	796	95.9%	101.3%

■効率性指標（作業完了までの期間）

開発　2017年度受付　ソフトウェア開発依頼書（返却除く）（不具合を含めた処理済み　439件）

月数	当月	1か月後	2ヶ月後（対応月）	それ以降
累　計	172	239	292	439
完了率	39.2%	54.4%	66.5%	100.0%

運用　2017年度受付　作業依頼書（画像取出し除く）（処理済み　792件）

月数	当月	1か月後	2ヶ月後	それ以降
累　計	635	701	712	792
完了率	80.2%	88.5%	89.9%	100.0%

◎総務室・財務室・人事管理室・広報室

法人本部機能を有するため、佐世保中央病院のみならず法人全体の業務を行っています。総務室では各種労務管理・各種手続き・福利厚生・契約業務などを担当しています。財務室では、給与計算・現金・預貯金管理業務、収支月表作成、収益の計上、各種経営資料の作成、企業年金基金などの業務を担当しています。人事管理室では、人事考課・各種研修を担当しています。広報室のミッションは、地域住民の方に信頼され、愛され、支持されるために、白十字会の取り組みを積極的に発信していくことです。具体的には、パブリシティや広報誌・ウェブサイトなどの広報媒体の校閲、理事長の講演サポートなどを行っています。

職員配置

	常勤	非常勤
総務室	4人	2人
財務室	9人	1人
人事管理室	2人	
広報室	2人	1人
総数	17人	4人

活動状況

■総務・財務関連

働き方改革への対応のため、情報収集・検討の場を設け、各種規程の整備を実施しました。特に2019年4月1日に改正される労働基準法への対応について、慎重かつ迅速に進めています。障がい者雇用においては、法定雇用率の引き上げ等に伴い、新規雇用を促進しています。2018年度より開始された社会医療法人の外部監査の義務化に伴い、医療法人会計基準の導入や外部監査予備調査の対応を行いました。

■福利厚生関連

職員の皆さんに喜んでもらえ利用しやすい福利厚生制度を目指して、さまざまなサービスを提供しています。「白十字むつみ会」では、恒例となっていますレクリエーションを2018年10月13日、佐世保市総合グラウンド体育館にて開催しました。昨年と同じく「インディアカ大会」を行い、法人内各施設より19チーム128名の職員が参加しました。

また、JTBベネフィットの「えらべる倶楽部」の利用案内やプロ野球・福岡ソフトバンクホークス戦のヤフオクドーム観戦チケット抽選会、各種コンサートや落語会の特別料金での案内など、さまざまな福利厚生メニューを用意しています。

さらに、プロサッカーチーム「V・ファーレン長崎」を応援する意を込めて、年間シートを確保しています。

■各種研修の開催

人事管理室では、『人財』育成のため、それぞれの立場に応じた各種研修を開催しています。

・階層別研修
　新入職員研修、フォローアップ研修（1年次、2年次、3年次）
・OJT研修（新入職員担当者を対象とした研修）
　新指導者研修、フォローアップ研修（前期・後期）
・リーダー研修（所属長・部門長から推薦のあった者を対象とした研修）
　初級、中級
・監督者研修（監督の任に携わっている者を対象とした研修）
・管理者研修（管理の任に携わっている者を対象とした研修）
・選択型研修

重点目標・評価と来年度への展開

働き方改革への対応のため、所属職員の知識向上のため、各種説明会・講習会へ参加し、法人内へ還元します。また働きやすい職場環境づくりへの一助として、福利厚生制度の充実を図り、愛着ある職場構築を目指します。財務においては、2018年度から開始された社会医療法人外部監査への対応を引き続き継続していきます。

【地域医療連携センター】

当院は、地域医療機関との連携を深め、地域医療の充実を図るべく、入院病床や各種医療機器を開放し共同で利用することができる「開放型病院」として、さらに地域医療機関からご紹介いただいた患者さんに、より詳しい検査や専門的な治療を行う「地域医療支援病院」として運営を行っています。

地域医療機関からの診療予約サービス、開放型病床における共同指導、地域医療機関と情報を共有するメディカル･ネット99の運営などを通じて、より円滑な紹介患者さんの受け入れおよび当院から地域医療機関へ患者さんのご紹介を行うことで、地域住民が一貫した診療体制の中で安心して治療していただけるよう努力してまいります。

また、退院後も安心して生活していただけるよう医療ソーシャルワーカーが、介護保険などの各種制度のご案内や各種医療福祉施設のご紹介、経済的な相談をお受けするなどして、患者さんを支援しています。

地域連携パスの実施状況、ベッド稼働状況などの各種データ統計も重要な役割であり、さらには当日の入院依頼におけるベッドセンターの機能を有しています。

職員配置

医　　師	看 護 師	医療ソーシャルワーカー	事務職員	合 計
2人(兼任)	2人	8人	6人	18人

活動状況

紹介率など各種の統計についてはP38病院統計をご覧ください。

重点目標・評価と来年度への展開

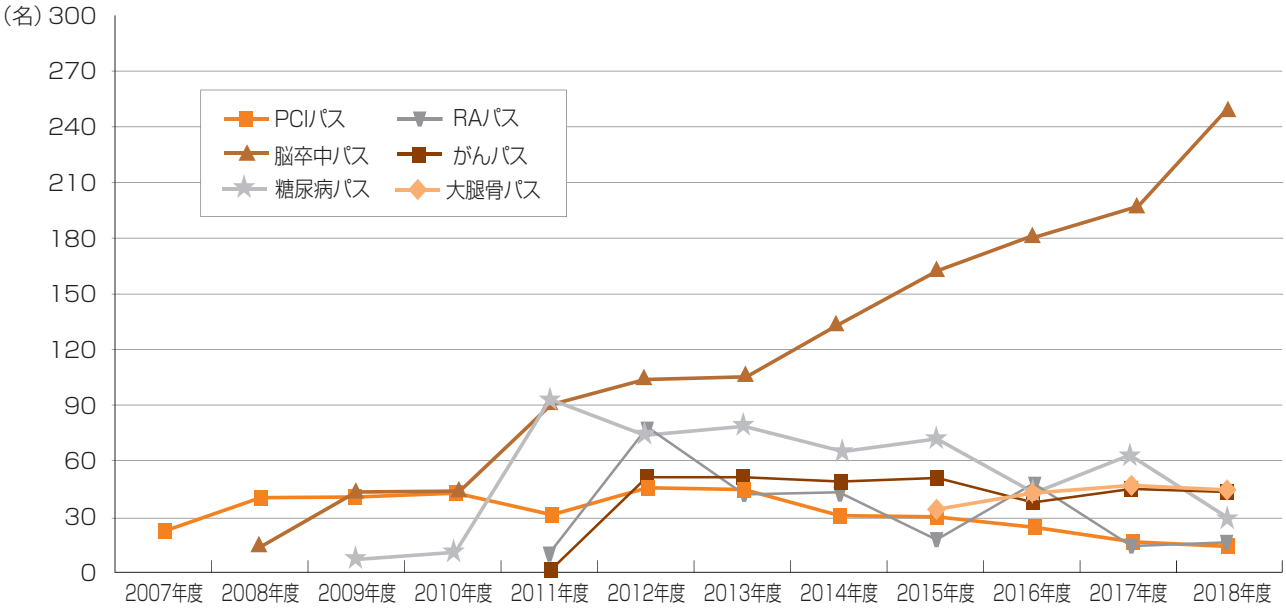
■地域医療機関との連携強化

顔の見える関係強化を図るべく2018年10月に4回目となる地域連携懇談会を開催しました。当日は約150名の参加があり、日頃のお礼も含め有意義な意見交換の場となりました。また、地域医療機関や福祉機関への訪問は478件実施し、そのうち27件は当院医師と同行訪問し、意見交換や当院のアピールを行いました。今後も積極的な訪問活動を行っていきます。

■在宅医療への貢献

当院と連携している在宅療養支援診療所との連携を深めるべく、2018年8月に「2018年度ダブル改定が目指す医療介護連携」をテーマに講演会を開催し、医師をはじめ多くの職員が参加しました。また退院支援においては、多職種による早期介入により在宅復帰率は97.8%となりました。今後も、患者さんの幸せな退院を目指して取り組んでいきます。

■地域連携パス新規導入患者数推移

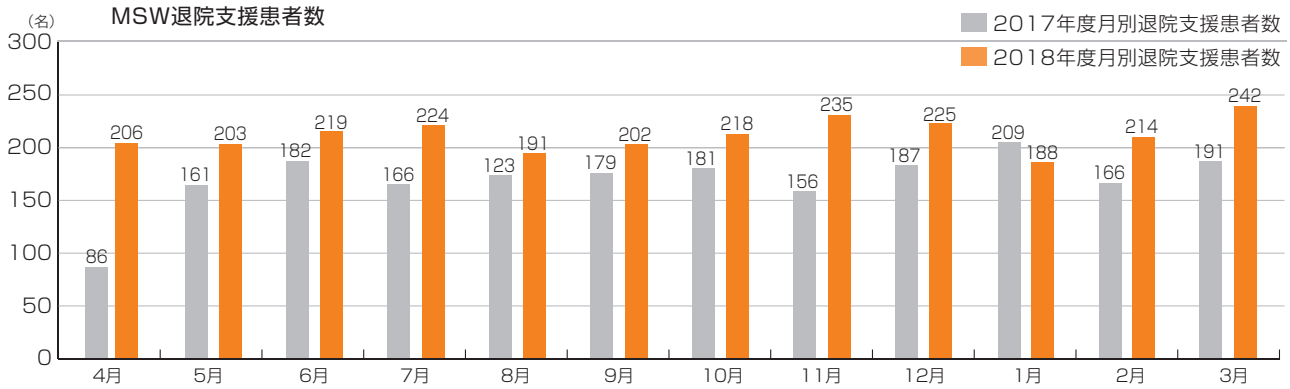


	運用開始時期	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	計
ＰＣＩパス	2006年5月	26	43	40	44	33	45	43	33	31	27	18	16	399
脳卒中パス	2009年2月		17	42	42	92	108	114	131	162	183	198	249	1,338
糖尿病パス	2009年8月			5	8	96	75	81	65	70	43	63	29	535
ＲＡパス	2011年7月					8	77	42	43	21	51	16	17	275
がんパス	2012年3月					1	49	49	47	49	37	46	42	320
大腿骨パス	2015年8月									34	42	50	46	172
合　　計		**26**	**60**	**87**	**94**	**230**	**354**	**329**	**319**	**367**	**383**	**391**	**399**	**3,039**

MSW活動報告

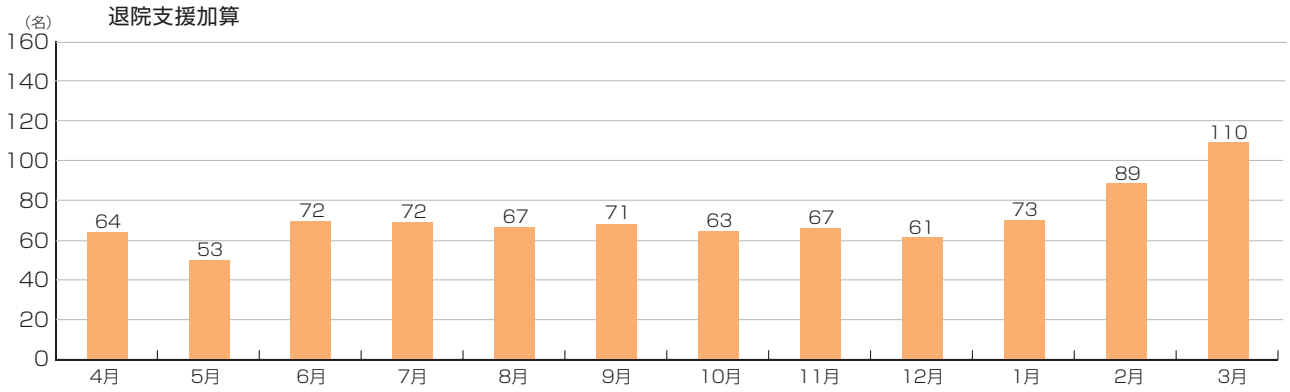
■MSW退院支援介入件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	**総計**
2017年度退院支援患者数	86	161	182	166	123	179	181	156	187	209	166	191	**1,987**
2018年度退院支援患者数	206	203	219	224	191	202	218	235	225	188	214	242	**2,567**



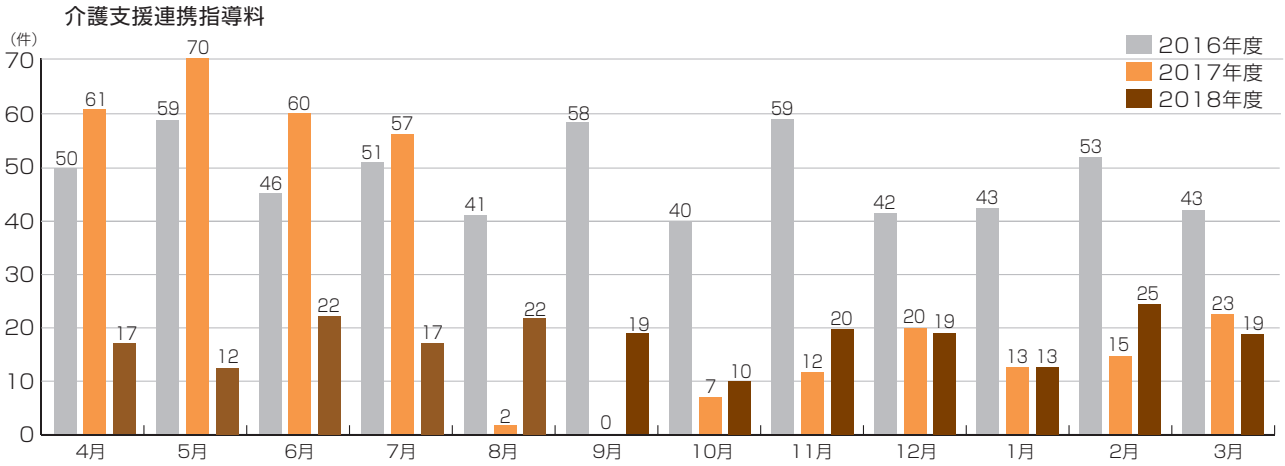
■退院支援加算

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	**総計**
2018年度	退院支援加算	64	53	72	72	67	71	63	67	61	73	89	110	**862**



■介護支援連携指導料

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2016年度	50	59	46	51	41	58	40	59	42	43	53	43	585
2017年度	61	70	60	57	2	0	7	12	20	13	15	23	340
2018年度	17	12	22	17	22	19	10	20	19	13	25	19	215



患者相談実績

患者相談内容	平成30年度		
① 転院・転所の相談	1,077	⑨ 関係機関(者)との連携・調整	1,946
② 在宅療養の相談	989	⑩ 家族・対人関係	41
③ 経済的問題	26	⑪ 苦情	4
④ 社会保障・福祉相談	146	⑫ インフォームドコンセント	122
⑤ 介護保険に関する相談	637	⑬ 情報提供	1,838
⑥ 入院・受診相談	177	⑭ がん・難病疾患相談	543
⑦ 心理的問題	59		
⑧ 就労・社会復帰相談	6	合計	7,611

■在宅復帰率

●平成29年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
一般病棟	95.6%	96.3%	95.3%	95.9%	96.4%	97.2%	95.8%	96.9%	95.9%	97.1%	94.9%	94.5%	96.0%

●平成30年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
一般病棟	98.4%	97.7%	97.9%	97.3%	99.1%	98.4%	97.5%	97.6%	97.8%	97.1%	97.5%	97.6%	97.8%
地域包括ケア病棟					92.9%	96.8%	85.9%	92.8%	90.8%	79.2%	89.1%	84.3%	89.0%

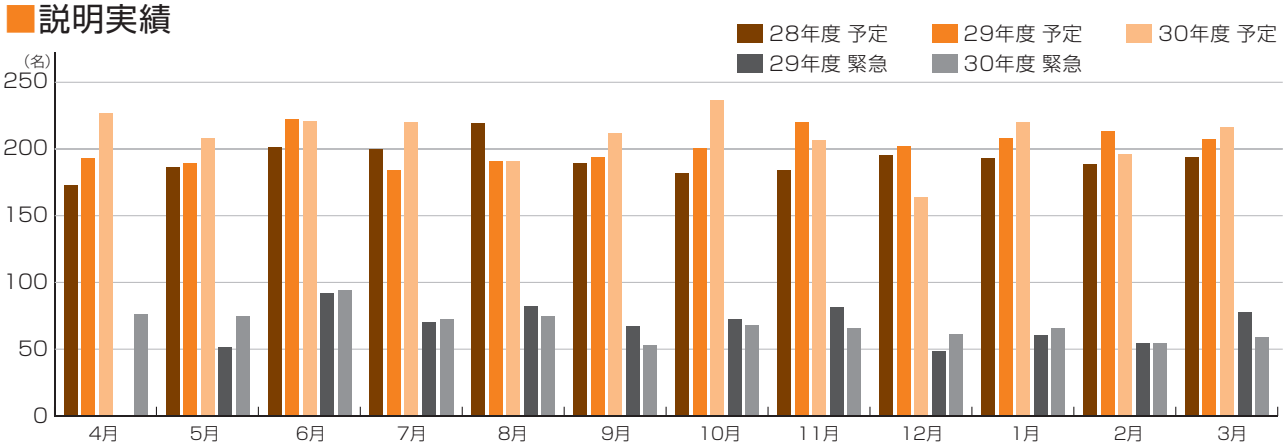
【入退院支援センター】

当センターは「患者支援において患者の入院前から退院後までの治療に関する支援の実施ならびに安心で納得した快適な療養環境の提供を推進する」を目的に2015年8月に開設して3年が経過しました。当センターでは入院に際して多職種協働で患者さんやご家族に関わっています。専任の看護師による入院期間中の治療計画をクリニカルパス表とパンフレットに沿っての説明、また薬剤師による服用中の薬剤内容の確認、治療のための薬剤指導を行なっています。事務職においてはご負担軽減のための各種サービスの説明相談を承っています。更には退院時の患者さんの状況を考慮してメディカルソーシャルワーカー介入も該当される方や、ご希望される方々への説明、社会福祉資源の紹介も行っています。2017年5月より緊急入院の説明も開始し件数も増加しています。

職員配置

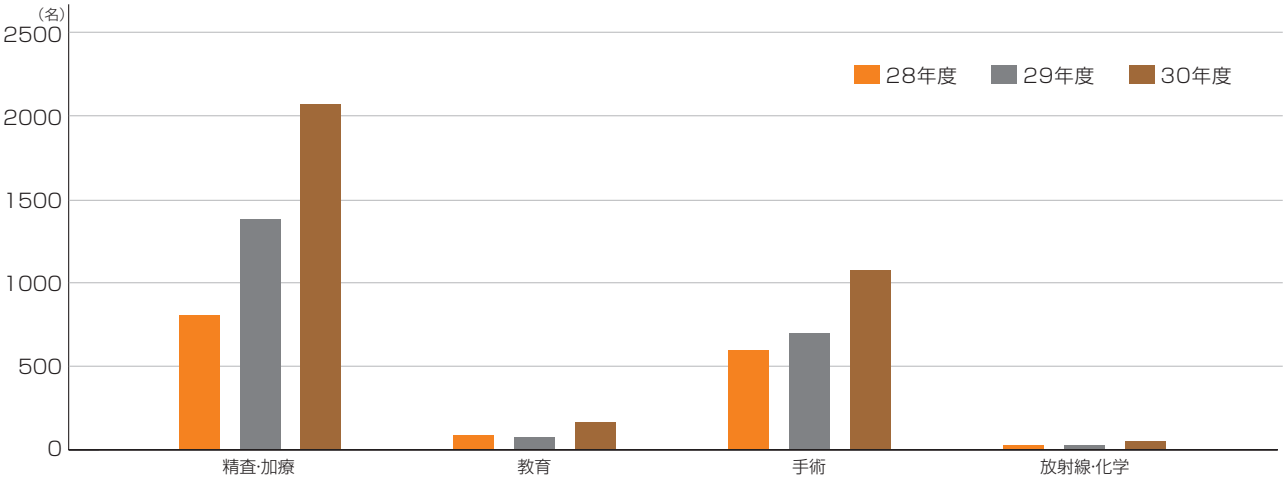
専任看護師	事務職員	薬剤師	MSW	アシスタント	臨床検査技師
2名	2～3名	1名　オンコール	1名	1名	自部署で関与

■説明実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
28年度　予定	175	186	201	200	219	190	182	181	196	195	191	193
29年度　予定	192	189	223	185	190	196	200	221	201	208	209	208
30年度　予定	227	208	222	218	190	213	238	206	167	220	197	216
29年度　緊急	0	51	88	70	79	67	72	82	49	62	52	79
30年度　緊急	76	74	90	71	75	52	70	66	62	65	52	57

■看護師による主な説明内容



■MSW介入件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
28年度	介入有	3	2	4	1	2	1	2	0	1	0	1	3
	介入無	184	167	181	180	213	184	163	181	195	195	191	190
29年度	介入有	5	4	2	3	5	1	1	5	3	2	1	2
	介入無	187	236	309	252	264	262	271	298	247	268	260	287
30年度	介入有	1	0	5	1	0	0	1	0	1	1	0	0
	介入無	302	289	312	288	306	265	307	272	228	284	249	273

NSWの介入は、介護保険についての説明が主であるが、予定入院では状態変化が入院前では見られない為件数的には少ない。入院説明の時も家族が本人の前では「自宅では無理」「施設希望」などの発言がない為、かかりつけの場合など診療科で環境の変化など情報収集と介入の必要性が重要となるようです。

■薬剤師介入件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
28年度	介入有	13	18	14	9	15	15	9	7	7	7	6	7
	介入無	176	172	187	191	204	172	173	179	196	188	187	187
29年度	介入有	4	16	13	16	9	20	9	14	6	10	16	16
	介入無	188	226	298	240	260	243	263	289	244	260	249	273
30年度	介入有	13	17	15	8	17	10	14	11	7	14	15	15
	介入無	190	282	302	281	289							

薬剤師の介入は、服用中の薬剤内容の確認、治療のための薬剤指導(休薬)、入院時の持参薬確認やカルテへの入力を行っています。

今後の目標

■患者 総合支援としての稼働

前方連携から後方連携への構築や、入院前より薬薬連携を利用して、退院後の薬剤管理ができるように組み込み、病棟へ情報提供を行うことが重要と考え対応していく予定です。

【健康管理部】（健康増進センター）

佐世保中央病院に併設された施設で、2002年に白十字会医療社会事業部から現在の健康増進センターへ移行しました。健康診断の専門施設として、ゆとりのある空間での快適な受診環境が整備されています。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、さまざまな健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師など、各専門スタッフが担当し、健診の質の確保を図っています。

また2008年12月に運営の合理性など、第三者による客観的な評価として、人間ドック学会の健診施設機能評価を認定取得し、さらに2019年4月には、認定更新が承認されました。

これからも業務内容と環境の両面での見直しを行い、利用者目線で質とサービスの向上に取り組んでいきます。

認定施設

日本人間ドック学会健診施設機能評価（Ver.4）認定施設

日本人間ドック学会専門医研修指定施設

日本人間ドック学会保健指導認定施設

健康保険組合連合会指定健診施設

全国健康保険協会管掌健診指定施設

職員配置

	常　勤	非常勤
医師	3人	3人
保健師	6人	1人
看護師	2人	1人
その他の職員	6人	10人
合計	17人	15人

＊健診事業において、本院の医師および臨床検査技師、放射線技師の支援を受けている。

活動状況

■健診コース別受診者数

健診種類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
政府管掌	一般健診		92	189	183	169	167	455	288	321	332	316	18	2,530
	付加健診	1	8	15	13	7	3	43	13	11	28	25		167
	肝炎													
	婦人科検診		12	16	9	7	5	101	20	22	32	19		243
人間ドック	1日ドック	59	70	125	142	159	150	110	127	150	147	159	200	1,598
	2日ドック	4	5	15	39	32	33	22	34	40	23	19	14	280
	レディースドック				15	40	36	23	40	22	23	26		225
	肺ドック				12	26	24	23	20	10	19	7		141
健康診断	定期健診	47	65	98	246	101	101	128	141	111	79	80	58	1,255
	成人病健診	40	56	48	43	40	41	52	74	24	14	11	60	503
	ミニ脳ドック	3	1	5	7	11	10	10	8	5	6	4	10	80
	職員	523	393	591	492	51	10	197	61	111	180	45	24	2,678
	その他	11	12	13	18	8	12	12	7	18	8	19	35	173
佐世保市関連	胃癌検診	85	107	69	98	99	84	76	86	52	76	76	116	1,024
	肺癌検診	27	24	51	91	112	86	68	88	54	88	73	116	878
	子宮癌検診	64	82	79	103	73	80	67	94	69	75	67	121	974
	乳癌検診	72	86	106	114	88	86	69	103	69	91	81	138	1,103
	大腸癌検診	35	30	63	96	112	92	79	89	63	97	93	129	978
	前立線癌検診	17	11	27	35	41	32	27	15	22	27	30	34	318
	特定健診			4	69	82	61	44	55	45	47	39	79	525
実績件数		1,087	1,054	1,514	1,825	1,258	1,113	1,606	1,363	1,219	1,392	1,189	1,152	15,772